

社会福祉法人万葉の里 令和7年度 事業報告

I. 令和7年度 事業総括	1
II. 障害者センター事業部門	2
障害者センター事業部門全体総括	
1. 地域活動支援センターつばさ	4
2. 生活介護事業 太陽	10
3. 自立訓練事業（生活訓練・機能訓練）はばたき	13
4. 就労継続支援事業B型 どーむ	16
5. 短期入所・日中一時支援事業えんじゅ	19
6. 保健衛生事業	22
III. KOCO・ジャム事業部門	25
KOCO・ジャム事業部門全体総括	
1. 生活介護事業この里	27
2. 共同生活援助事業 ケアホームひかり	31
ケアホームこの葉	
3. KOCO・ジャム短期入所事業	34
4. 居宅介護事業ウイング	36
IV. 基幹相談支援センター部門	38
V. 法人全体事業	45
VI. 理事会・評議員会等	48
巻末資料：令和7年度 障害者センター利用状況一覧	50
令和7年度 KOCO・ジャム利用状況一覧	

I 事業総括

「令和7年度上半期事業報告書」では、(1)事業運営、(2)人材育成、(3)その他の3点について記した。本報告書でも、下半期の経過とともに、先の3つの項目について報告する。

(1)事業運営

上半期事業報告においては、短期入所事業、地域活動支援センターと学齢期にある利用者が学校に登校しない代替りの場所としての利用が増えている旨を報告した。また、生活介護事業太陽においては、利用者の障害の重度化、高齢化に伴い、医療的ケアを要する方が増えており、安心・安全な利用につながるよう、取り組んでいることを報告した。その後、下半期も含め、国分寺市障害者センター部門、KOCO・ジャム部門とそれぞれ発生した課題に対して、試行錯誤をしながら取り組んでいる様子がうかがえた。「働く」ことをテーマとしている就労継続支援事業B型どーむ、生活介護事業この里では、新たな作業、作品作りに取り組み、利用者がより主体的に取り組めるよう努めていた。生活介護事業太陽、ケアホームでは利用者の変化、取り巻く環境に戸惑いながらも、関係機関と連携を図り、他サービスを活用し環境の整えに努めていた。その他の事業においても、限られた人員の中で、成果が得られるようアイデアを出し合い、悩みながらも歩みを進めていた。指定管理事業、委託事業ともに、求められている業務を完了することができたことは、職員一人ひとりが力を発揮した結果と捉えている。併せて、KOCO・ジャム事業においても、考え悩むことが多かった分、チーム力が高まった一年であった。

(2)人材育成

令和7年度は部門長4名が「理念の共有」を課題と捉え、意識的に取り組むことをスタートした。法人が掲げる理念について「私はひとことで表すとこの言葉です」と職員一人ひとりが言えるよう、令和7、8年と2ケ年に渡って研修、グループワークを実施することとした。令和7年度は既にこの取組を実施している法人の方を講師として迎え、理念の大切さ、理念と日々の支援とどのように結びつけるかの講義を受けた。その後、グループワークを実施し、職員一人ひとりが表現した「ひとこと」を共有した。令和8年度も引き続き、取組を継続し課題解決に取り組んでいきたい。人事考課制度の試行については、下半期漸く実施にいたった。実施までの経過は「考課する」ことへの不安、抵抗等（「考課されること」も含めて）もあり、時間をかけて意見交換を行いつつ進めた。実際、実施したことで、それらが払しょくできたとは捉えてはいないが、「考課の時間」がする側、される側双方が直接話をする機会となり、理解しあう時間となったと捉えている。併せて、雇用契約が異なる（契約職員、非常勤職員）職員の面談シートの作成、実施時期等について整え、令和8年度より実施する予定である。「考課」と捉えると堅苦しいものとなってしまいが、「面談シート」を活用し双方の共通理解、認識を図り、職員の意欲に繋がるよう取り組んでいきたい。職員全体のこととしては、令和7年度においても休職となった職員が3名発生した。その内、復職となったのは2名で、1名が退職にいたった。仕事に支障をきたすような不安や悩みは一人ひとり異なるが、心身に影響がでる前段階において、相談ができる体制（カウンセラーによる相談室）を次年度は取り組む予定である。

(3)その他

令和8年度秋より実施予定である「国分寺市障害者センター大規模改修」に向け、国分寺市の担当所管と定期的な打ち合わせを設け、準備を行った。国分寺市障害者センターは設立以来、20数年が経過し、改修工事はしなければならないことである。その中で、サービスを継続するにはどうしたら良いか、アイデアを出し合い、実施可能なことであるかを関係機関（東京都、保健所等）に確認しながら進めることが必要と捉えている。今後は、実現可能と判断されたことについては、変更点について利用者にご説明する機会を設け、大きなご不安、ご心配にならないよう努めていきたい。併せて、この期間大変さは確かにあるが、「マイナスなこと」として捉えるのではなく、法人一丸となって取り組み、更にチーム力が増した法人となるよう努めていきたい。

II 障害者センター事業部門

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

障害者センター部門は、第6期指定管理の3年目を迎えた。令和8年度に予定している大規模改修中も、継続してサービスを提供できるための体制整備について障害福祉課と話し合いを重ねて準備をした。一部機能を光町の旧子ども家庭支援センターに移転して、2拠点での事業運営が令和8年冬から決まっており、光町は令和8年4月からリフォーム工事が始まる。障害福祉課主催による改修の概要説明会を利用者・家族に向けて1・2月に実施し、その後はヒヤリング期間として各利用者のモニタリングや家族会を活用して心配な点などの聞き取りを行っている。そこで出された具体的な質問等を市と共有し、各課題について対応策を検討し準備を進めている。

経営上の課題としては、特に生活介護事業太陽において重度化・高齢化に伴う体調変化が顕著で、連続して休む利用者が複数、季節を問わず発生したことが今年度の特徴であった。そのため、利用率が予想以上に低くなり、収支に大きな影響を及ぼした。この体調変化については今後も続くことが予想され、出来るだけ休みを長引かせず、通所復帰が早期に叶うように医療機関・家族等との連携により積極的に取り組んでいく必要がある。

2) 利用者支援

利用者の状況については、近年、重度化・高齢化による介護度の上昇が顕著になってきており、食事提供場面や医療的ケアの受け入れ体制整備に日々取り組んでいる。医療的ケアについては事業者登録を完了し、支援職員が医療的ケアに実際に従事する取組が開始できたことは大きな成果である。また、障害福祉課による「国分寺市障害者センター医療的ケア実施要綱」作成にあたり、センターの現状と課題を共有しながら内容について協議を重ね、令和8年1月末に要綱が施行された。今後はこの要綱に基づいて、より安心・安全な受入体制を整えていくことになる。その他、各事業のニーズもより専門的な知識・技術が求められ、必要に応じて各種研修や実習等の人材育成に取り組んだ。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

(1)地域活動支援センターつばさ（以下「つばさ」という）の相談支援事業では、相談支援専門員を1名増員となり、新規相談やセルフプランから移行される方の受入に取り組んだ。つばさの強みであるチームでの支援体制を活かし、困難ケース（家族全体で支援を必要とするケース等）、児童、医療的ケア、触法ケース等、様々な相談に対応した。サロン事業では、活動室や地域の施設（いきいきセンター、恋ヶ窪ベース、なみき牧場等）を活用して定例プログラムや、外出プログラム、地域イベントの参加等、様々な形での活動を実施し、定期利用者のみならず新規利用者のニーズに応えるよう機会を作った。普及啓発事業については、日中時間帯や外部施設（オープンイノベーションフィールド多摩等）を活用し、当事者の現状やニーズ等について、本人・家族や実際の支援者から直接経験等を聞ける機会を設けることで、障害理解の促進に努めた。また YouTube 配信も可能な限り実施し、多く方に知っていただく機会を提供した。

(2)生活介護事業太陽（以下「太陽」という）では、重度化・高齢化による介護度の上昇が大きな課題となっている。医療的ケアの体制整備、呼吸器の方の単独通所試行、強度行動障害（特に他害がある方）に対するスーパーバイズ等を行い、課題解決に取り組んだ。今後は、食事提供場面の介護度の上昇（食事形態の変更や胃ろう造設による1対1での対応の増加等）に対応できる体制整備が、大きな課題と捉えている。

(3)自立訓練事業はばたき（以下「はばたき」という）では、有期限のサービスで利用者の出入りが定期的にあるのが特徴の事業で、その時のメンバーに合わせて活動も変化してきている。現在のメンバーはポッチャに関心が高く、週末の地域の大会に積極的に参加するなど、社会参加支援につながっている。ポッチャを取り入れることで、体力の変化のみならず、社会性の向上（グループでの行動、新しい地域の方とのつながり）、新しいことにチャレンジする意欲など様々な効果が表れている。また、就労支援として、どーむと連携して給湯器解体等の作業に挑戦し、就労への意欲向上につながっている。はばたきでの訓練がより効果的・客観的になるよう、引き続きリハビリテーション加算の実施やSIM（社会生活の自立度評価指標）を取り入れながら、活動を実施している。

(4)就労継続支援事業B型どーむ（以下「どーむ」という）では、昨年度からの取組である清掃業務の全員参加体制や定期的な「おにぎり定食」の販売、「お仕事ネットワーク」の共同受注作業日を明確化するなど、利用者が参加しやすい仕組を整備したことで、仕事への意欲向上につながっている。また、工賃と工賃評価を見直して、利用者にとって解りやすく、仕事へのモチベーションが上がるような体系に整理した。令和8年度の後半から光町への移転が決まっており、各利用者の意向確認や課題共有に努め、不安軽減とスムーズな移転ができるように準備を進める。

(5)短期入所・日中一時支援えんじゅ（以下「えんじゅ」という）では、太陽と同様、重度化・高齢化への対応が求められている。特に食事形態の変化については、介護人のみの対応では難しくなっており、市販の介護食の導入を検討している。介護食については災害時対策としても整える必要があり、法人内のBCP（事業継続計画）会議の中でも協議をしている。また、アレルギーへの対応など、食の安全についての課題が重要となってきている。医療的ケアを要する利用者の受入れについては、「国分寺市障害者センター医療的ケア実施要綱」に基づき、市とも確認を取りながら運営していくことで、より安心・安全な受け入れ体制に注力していく。整備したWEB予約のシステムについては、現在6割以上の方が利用されており、利便性を高めることができた。また、電話対応の時間や事務手続きも整理されたことでミスも減り、効果的な運営に繋がっている。

(6)保健衛生事業は、センター全体が直面している利用者の重度化・高齢化の対応の要となっている。特に今年度は念願であった事業者登録を完了し、支援職員の医療的ケアの実施を開始できたことでスタッフ間の連携が一歩進んだ。また、呼吸器装着者の単独通所試行では、ご本人の意思決定支援や緊急時シミュレーションを重ねて体制整備に努めた。その他、新たに「国分寺市障害者センター医療的ケア実施要綱」が施行され、より客観的・専門的な視点から受け入れ体制整備に取り組む際に、重要な役割を担っていくこととなる。医務チームについては、利用者のみならず職員の日常の健康管理・健康相談・休職者の復職支援等、職員の健康管理にも重要な役割を果たしている。

3. 人材育成

虐待防止の観点からも、法人の理念に基づいた支援が定着することが重要であると考え、法人全体で同じ講師による全体研修(虐待防止研修・理念研修)を実施した。第三者評価事業所からも「万葉の里ではたらくあなたへ」の更なる活用を推奨されていることから、理念と実際の支援が結びつくような研修を取り入れて、人材育成に努めた。職員会議での研修報告、実践発表、理念研修、事例検討など、様々な場で各職員が自分の言葉で支援を伝える・語れる（根拠のある支援）ような機会を設けた。また、人事考課試行を下半期に実施し、職員と管理職がお互いに客観的に業務を振り返り、今後の目標につなげる機会となっている。このように色々と取り組みながら働きやすい環境づくりを目指し、次世代を担う人材育成に努めていきたい。

1 地域活動支援センターつばさ

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

令和7年度より計画部門は、相談支援専門員が1名増員され、地活部門は6名中3名が異動及び新任職員となり、日々の事業運営を通して新任者の育成とともに業務引継ぎを行った1年となった。「相談支援事業」「サロン事業」「普及啓発事業」を運営の3本の柱として、予定した活動を計画的に行いつつ、令和8年度に実施予定の大規模改修を見据えた準備期間として意識的に事業を運営した。サロン事業及び普及啓発事業についてはマニュアルの整備も含め、移転した後も事業運営の滞りがおきないように、継続可能な運営の見直しと整えに取り組んだ。市内における相談支援の中核を担う事業所として引き続き相談支援体制の強化に努め、地域生活支援拠点として緊急時や親亡きあとを見据えた本人の暮らしの構築に向けた相談支援を行った。令和7年度より開始した特定相談・一般相談連携機能強化支援事業では、精神科病院からの退院支援として3件を申請し、うち1件はグループホームへの地域移行により計画相談開始となる等、一般相談と計画相談の内部連携にも取り組んだ。相談支援事業、サロン事業、普及啓発事業の3つの事業がそれぞれ連動して利用者支援につながる事業運営を実施している。

2)利用者支援

障害を問わず、障害種別を超えてともに活動することを大切にしているサロン事業では、実際にすべての障害及び難病の方に登録をいただき、地域のボランティアや講師、協力員の協力を得て、さまざまな体験や経験の場となるよう活動を行った。利用者の「やりたい」を大切にできるよう、障害特性に合わせて質問項目を個別にわかりやすく設定したり、イラストを活用したりする等の聞き取りの工夫を行い、聞き取った希望や意向を取り入れた活動を実施した。相談支援においては、必要に応じて初回面談から一般相談と計画相談で連携して対応することで、スムーズに計画相談の導入ができるよう形を整えた。支援に困難性があるケース（希死念慮、警察対応案件、暴言など）については、内部会議を活用して事例検討を行い、利用者の背景を理解すると共に、全体で相談支援の方向性を共有し対応することにつながった。一般相談のみの利用でつながっている利用者も一定数あり、長い時間をかけて伴走する相談支援を継続している。普及啓発事業では、各講座の後日YouTube配信の際に、講演内容のすべてに字幕を入れる作業を追加し、障害に関わらず誰もが視聴しやすい環境設定を行った。

3)職員育成

新任職員が対応する面談や訪問、及び支援に困難性のあるケースの相談対応については、可能な限り2名体制での対応を行い、日々の電話相談では、対応内容の共有や意見交換を継続する等、日々の業務を通してともに意見交換を行いアセスメントの視点を深め、実務を個々の育成につなげている。サロン事業や普及啓発事業では、業務引継ぎを通してマニュアル整備を行い、全体の把握と見直しを持って業務に臨むことができるよう職員育成につなげている。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 相談支援事業	<ul style="list-style-type: none">・相談支援に困難性があるケースはチームミーティング及び内部会議にて情報共有し、フォロー体制をとりながら相談対応を行った。・一般相談から計画相談に移行したケースは6件、今後つながる見込みが4件ある。一般相談と計画相談の連携の形ができた。・市や基幹、利用者からの依頼を受け、セルフプランから計画相談への移行に取り組んだ。・各種ネットワーク会議に参加を継続し、事前の意見聴取や事後の意見交換を行い、各会議での検討内容の周知を行った。	<ul style="list-style-type: none">・継続的な一般相談と計画相談の連携体制の維持・チームによる相談支援体制・セルフプランから計画相談への移行の取組・関係機関との連携強化

<p>2. サロン事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な事業所訪問を継続し情報収集につながっている。新規事業所情報や来訪があった事業所からの情報は即時共有し、相談支援に活かしている。 ・相談支援からみえた地域課題を、基幹及び相談支援事業所連絡会に報告した。地域体制強化共同支援を通して地域課題を11件報告した。 ・障害特性に合わせた意向の聞き取りの工夫を行い、聞き取った希望や意向を各活動に取り入れた。食事会を企画した際には、アレルギーのある利用者が安全に活動参加できるよう環境を整えた。 ・「いきいきセンター」や「恋ヶ窪ベース」を活用したプログラム活動を継続するとともに、新たに「なみき牧場」での活動を実施した。七夕には、地域の中村農園から笹をいただきコミュニティホールに飾るなど、活動を通して地域とのつながりを大切に取り組んだ。また、地域のポッチャ大会への参加継続及び、「国分寺障害者団体連絡協議会」主催のポッチャ大会への参加など、地域に出向いて参加する形が定着している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援関係者との相談しやすい関係性の構築 ・地域課題の発信 ・利用者の特性に合わせたプログラムの運営など、利用者が主体的に参加できる活動の検討 ・社会参加の機会の提供
<p>3. 普及啓発事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民福祉講座では、後日のYouTube配信により多くの市民に情報を届けることができた。 ・高次脳機能障害関係機関連絡会、発達障害者支援関係機関情報交換会では、グループディスカッションを通して顔の見える関係の構築につながった。 ・高次脳機能障害者支援促進事業のつながりから、医療機関や介護保険ケアマネージャーからの相談が増えた。介護保険2号被保険者の支援に加わり、障害分野の情報提供や各種制度の申請をサポートする連携ができた。 ・高次脳機能障害者支援促進事業と発達障害者理解促進体制整備事業の取り組みから見えた課題も基幹に報告した。 ・ボランティアセンターの福祉体験プログラムの講師として、小学校における視覚障害の体験授業に協力した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害についての理解促進を目的とした市民福祉講座の開催。 ・関係機関とのネットワーク構築を目的とした連絡会や情報交換会を通して、地域における相談支援の実務の向上を図る。 ・小学校の福祉体験プログラムへの協力の継続。

3. 活動実績

1) 相談実績 総数：14,366 件（一般相談件、計画相談件）

平均相談件数：45.6 件（実働日 315 日）

新規相談：128 件

① 相談支援の方法

(単位 件)

種別	訪問	来所	同行	電話	メール	CC	関係機関	その他	計
総合 相談	47 (58)	321 (331)	35 (30)	3,077 (3,364)	27 (10)	19 (24)	353 (316)	57 (31)	3,936 (4,164)
計画 相談	942 (833)	689 (692)	191 (128)	2,439 (2,087)	270 (85)	72 (87)	5,344 (4,440)	483 (92)	10,430 (8,444)
計	989 (891)	1,010 (1,023)	226 (158)	5,516 (5,451)	297 (95)	91 (111)	5,697 (4,756)	540 (123)	14,366 (12,608)

() 内は昨年度実績

*CC(ケースカンファレンス)：関係者会議。

※相談件数は、頻繁に相談する利用者の有無によって変動する。

② 相談内容

一般相談	単位：件	構成比%
福祉サービス	478 (530)	9.6
障害理解	878 (683)	17.6
健康医療	510 (376)	10.2
不安解消	1,775(2,458)	35.5
保育教育	8 (3)	0.2
家族・人間関係	358 (517)	7.2
家計経済	99 (55)	2.0
生活技術	329 (289)	6.6
就労	96 (88)	2.0
社会参加・余暇活動	335 (228)	6.7
権利擁護	2 (3)	0.0
その他	125 (140)	2.5
地域移行	0 (0)	0.0
合計	4,993 (5,370)	100.0

計画相談	単位：件	構成比%
福祉サービス	8,467 (6,631)	55.5
障害理解	2,107 (1,896)	13.8
健康医療	1,896 (1,287)	12.4
不安解消	804 (585)	5.3
保育教育	222 (234)	1.5
家族・人間関係	660 (582)	4.3
家計経済	237 (122)	1.6
生活技術	302 (164)	2.0
就労	239 (180)	1.6
社会参加・余暇活動	153 (111)	1.0
権利擁護	62 (62)	0.4
その他	110 (168)	0.7
合計	15,259 (12,022)	100.0

() 内は昨年度実績

※相談内容は、1 回の相談の中で複数の内容がある場合は、それぞれの項目に計上。

※相談件数は、頻繁に相談する利用者の有無によって変動する。

③計画相談の契約数:契約者数 312人(3月末)

サービス等利用計画作成件数	401 (225) 件
モニタリング報告件数	582 (298) 件

2) サロン事業

①プログラム別参加者数

(単位 人)

プログラム名	令和7年度 (年間)	平均 参加人数	実施回数
交流サロン	994	3.5	284
健康体操教室 (恋ヶ窪ベースにて開催)	53	2.5	21
パソコン広場	100	4.3	23
あーとサロン	108	4.9	22
プレイス	94	9.4	10
WRAP (ラップ)	24	2.2	11
ハンドクラフト	52	4.7	11
たがやし隊 (センター周辺の花壇にて開催)	13	1.6	8
つばさトーク	12	4.0	3
いきいきプログラム (いきいきセンターにて開催)	47	5.9	8
スペシャルプログラム	8	8.0	1
合計	1505	—	—

②内容

<つばさトーク>

開催日	テーマ
10月29日	手洗い講習、感染症についての勉強会
12月24日	大掃除
1月7日	書初め

<いきいきプログラム>

開催日	内容
5月25日	フラダンス
6月22日	フラダンス
7月27日	フラダンス
8月24日	輪投げ
10月26日	風船バレー
1月25日	太極拳
2月22日	太極拳
3月22日	太極拳

<スペシャルプログラム>

開催日	内容
12月20日	冬のあーと教室 (プレイスと合同)

<たがやし隊>

開催日	内容
5月8日	野菜・花の苗植え
6月12日	ハーブのサシェ・ハーブを使ったソーダ作り
7月1日	七夕の短冊・飾り作り
9月18日	花の苗植え
10月2日	ハーブの苗植え
11月13日	スワッグ作り
12月11日	5月からの活動の振り返り・尾崎農園ツアーについての話し合い
3月12日	武蔵国分寺公園散策

<プレイス>

日程	内容
5月17日	自己紹介、レクリエーションなど
6月7日	みんなでピザを食べよう!
7月5日	ポッチャの練習・七夕飾り作り
8月2日	地域クラブ祭り
9月6日	10月・11月のプレイスの説明会、レクリエーション
10月4日	国障連運動会(ポッチャ大会)
11月15日	WARKINGに行こう!
1月31日	レクリエーションと1年間の振り返り
2月21日	花見ウォーキング説明会・レクリエーション
3月28日	ウォーキング(飯能)

<WRAP(元氣回復行動プラン)グループ>

日程	内容
5月24日	WRAPと元氣に役立つ道具箱
6月14日	元氣に大切な5つのこと①
7月19日	元氣に大切な5つのこと②
8月9日	日常生活管理プラン・ストレスと対応プラン
9月13日	注意サインと対応プラン・調子が悪い時と対応プラン
10月25日	クライシスプラン・クライシス後のプラン
11月8日	否定的な考えを肯定的に変える
12月13日	ピアサポート
1月10日	日常生活管理プラン・ストレスと対応プラン
2月7日	自殺予防・その他のこと:生活空間
3月14日	その他のこと:暮らし方、やる気

③対面朗読者派遣事業 登録者数5名 派遣回数17回

3) 普及啓発事業

①高次脳機能障害支援促進事業 <高次脳機能障害関係機関連絡会>

日程	内容	実績
6月19日	内 容：「高次脳機能障害の基礎理解と対応 ～いくつかの体験を通して理解してみよう～」 講 師：守矢 亜由美 氏 (東京都心身障害者福祉センター 地域支援課 高次脳機能障害者支援担当 課長代理)	43人 (会場13人、 YouTube30人)
12月6日	内 容：「高次脳機能障害者の家族に必要な支援」 講 師：飯田 一昌 氏 (高次脳機能障害当事者) 飯田 郁代 氏 (高次脳機能障害者家族) 長谷川 幹 氏 (世田谷公園前クリニック リハビリテーション科医師) 山口 加代子 氏 (川崎市南部リハビリテーションセンター在宅支援室 臨床心理士 / 公認心理師)	16人 (会場のみ)
3月19日	内 容：「回復期リハビリテーション病院の役割と現状から 地域生活への移行を考える」 講 師：江村 俊平 氏 (南多摩高次脳機能障害支援センター 室長代理)	20人 (会場のみ)

②発達障害者理解促進体制整備事業 <発達障害者支援関係機関情報交換会>

日程	内容	実績
7月12日	内 容： 「社会とのつながりをもちにくい当事者支援について考える」 講 師：田中 哲 氏 (子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ 院長)	21人 (会場のみ)
2月14日	内 容：「社会とのつながりをもちにくい当事者支援2 (続編)」 ～家 (ウチ) モードでの関わりと家族支援～ 講 師：田中 哲 氏 (子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ 院長)	9人 (会場のみ)

③市民福祉講座

日程	内容	実績
4月5日	内 容：「発達障害 心の育ちを支えるコミュニティ」 講 師：田中 哲 氏 (子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ 院長)	73人 (会場23人、 YouTube50人)
9月27日	内 容：「こころの出前講座 ～あなたに届ける当事者の声～」 講 師：森 茜子 氏 (特定非営利活動法人ミュー 施設長) 精神障害当事者 3名	56人 (会場28人、 YouTube28人)
1月17日	内 容：「地域生活を支える訪問看護ステーションの支援と取組み」 講 師：富永 久美恵 氏 (むさし国分寺訪問看護ステーション代表取締役・管理者) 西山 妙子 氏 (むさし国分寺訪問看護ステーション 看護師)	27人 (会場8人、 YouTube19人)

2 生活介護事業太陽

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

今年度は、各活動室の配置変更や備品の整理を行い、安全な動線確保や利用者が個別で活動できるスペースの設置等の環境整備に取り組んだ。また、多目的室、スヌーズレン、2階・3階フロアを活用し、2階・3階の利用者の交流を図った。

2)利用者支援

利用者の身体状況の変化により、医療的ケアの内容の変更や、食形態の変更等、重度化が顕著に見られた一年だった。利用者の重度化、高齢化へ対応するため、医療との連携及び高齢分野との丁寧な引継ぎを行った。医療的ケアについては、下半期に登録喀痰吸引等事業者登録が完了し、研修修了者が実際に医療的ケアを実施する体制が整備された。また、呼吸器装着者の単独通所の試行を重ねて定着を図る等、看護師と支援員の連携を強化し、より安全・安心な支援に取り組んだ。

3)職員育成

主任を中心として継続してOJTを行った。利用者理解を深めるために、強度行動障害の基礎研修に参加する機会を設けた。また、外部講師を招き、コンサルテーションを行うことで日々の支援の振り返りを行い、アドバイスを今後の支援に活かす貴重な時間となった。その他、生活介護事業この里と職員の交換研修を2カ月間行い、各事業での利用者支援や活動運営等を体験して学ぶ機会を設けた。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 医療的ケアのある方の支援の充実	第三号研修基本研修と実地研修を計画的に受講した。対象利用者3名に対し6名の職員が認定特定行為業務従事者認定証を取得し、登録喀痰吸引等事業者登録を行った。呼吸器装着者の支援では、1名の利用者が週に1回の単独通所を実施した。単独通所に向けての取組として、緊急時対応訓練を継続し、多くの職員が関わることで、安全な試行に努めた。	利用者の高齢化や重度化により医療的ケアが増えているため、支援職員と看護師が連携しながら安全な受け入れ体制を強化していく必要がある。呼吸器装着者の支援では、引き続き緊急時対応訓練を定期的実施し、また多くの職員が関わり、緊急時に速やかに対応できる体制を整えていく。
2.意思決定支援と個別支援計画の充実	オンライン研修や外部研修を受講することで、意思決定支援の理解を深める機会を設けた。	利用者が発信する意志表出を丁寧に汲み取り、個別支援計画に基づくサービスの提供に継続して取り組んでいく。
3. 情報発信の取組	日頃から活動や利用者の様子を写真や動画に意識して撮るよう取り組み、個別支援計画の面談や家族会、「たいようだより」等に活用した。	太陽の事業内容や活動の様子をご家族や見学者に伝えることができるよう、機器を活用し継続して写真や動画を撮り貯めていく。

4. 活動内容の充実	気候の良い時期は外活動の機会を増やし、暑い時期や寒い時期にはレクリエーションリハビリ機器をレンタルし、館内での活動の充実化を図った。	外に出て運動する機会を増やして欲しいという要望に応えられるよう、場所・人数・内容を工夫して活動の機会を設ける。令和8年度は大規模改修を見据えて、利用者一人ひとりの安全・安心を確保しながら活動内容の充実化を図っていく。
------------	--	--

3. 利用者の状況等

1) 利用者の状況

① 利用者の推移（令和7年4月1日～3月31日）

新規利用者 1人	小平特別支援学校卒業生1人
退所利用者 2人	在宅から入所施設に移行し、契約終了となった利用者1人 今年度1回も通所できておらず、生活を整えるためにしばらく入院することになり、契約終了となった利用者1人

② 年齢別利用者数（令和8年3月31日現在） 平均年齢 38歳4ヶ月 (単位：人)

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
2	10	14	15	3	2	46

③ 利用者の障害支援区分（令和8年3月31日現在） 平均 5.6 (単位：人)

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	5	7	34	46

④ 1日平均利用者数 平均 34.8人 (単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	37.0	36.8	35.7	35.0	35.4	34.2
(前年)	(36.2)	(37.1)	(36.3)	(36.6)	(36.3)	(33.5)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	34.8	34.1	34.9	34.5	32.3	33.1
(前年)	(34.9)	(36.9)	(36.0)	(36.7)	(36.1)	(35.9)

⑤ 障害手帳（令和8年3月31日現在） 重複あり (単位：人)

愛の手帳				身体障害手帳						精神保健福祉手帳		
1度	2度	3度	4度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	1級	2級	3級
9	25	4	1	22	8	0	0	2	1	0	2	0

2) 行事等の実施状況

4月	入所式（通所事業合同）	利用者全員
	お弁当給食	利用者全員
6月	東経大デモ販売	利用者1人・職員1人
7月	オミ・ビスタ体験（※） （リハビリテーション機器）	利用者全員
9月	東経大デモ販売	利用者1人・職員1人
10月	オープンデイ	利用者全員
	お弁当給食（通所事業合同）	利用者全員
11月	一日外出（振替）	利用者1人・職員1人
	一日外出（振替）	利用者1人・職員2人
12月	ランチdeコース	利用者全員
1月	二十歳を祝う会（通所事業合同）	利用者全員
	オミ・ビスタ体験 （リハビリテーション機器）	利用者全員
3月	納め会	利用者全員

※オミ・ビスタ： テーブルやフロア等へ映像を投影し、レクリエーション、リハビリ、脳トレ、自立活動、感覚遊び等が行える。動きに反応する映像と音による視覚・聴覚への感覚刺激により、心身に障害のある方から元気な方まで対象者を問わず、楽しく能動的に取り組める。（引用先： アビリティーズ・ケアネット株式会社ホームページより https://www.abilities.jp/techno-aid/fukusiyougu/kinou_kunren/reha/omi-vista）

その他：*東経大コラボ事業として学生とのクラブ活動・交流を定期的実施した。

*本人支給金：4月・7月・10月・1月に支給した。

*実習生受け入れ：小平特別支援学校より1名・武蔵台学園より2名
介護福祉士 実習受け入れ

3 自立訓練事業（生活訓練・機能訓練）はばたき

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

自立訓練事業では、機能訓練、生活訓練ともに、様々な障害特性に加え個別のニーズに対応した自立や地域生活に対応した幅広い訓練・支援を提供することが求められている。利用者一人ひとりのやりたい・なりたいと希望する自立した日常生活や社会生活を実現するために、各専門職が専門性を発揮し、効果的な訓練を実施できるようプログラム内容について検討を重ね、利用者が主体的に社会参加しそれを継続できるよう訓練の場を整えた。

2) 利用者支援

機能訓練では、働き盛りで罹患し介護保険第二号被保険者となった方や、生活訓練では、高齢の両親の支えで暮らし、地域サービス等につながらなかった 8050 世帯の方や、精神科病院の長期入院を経て地域生活に移行する方など、複数の課題を抱えながら、社会生活を再構築するための一歩として自立訓練事業が選ばれている。有期限のサービスを十分に活用できるよう、機能訓練では、PT・OT・ST が参加するリハビリ会議を定期的で開催し、リハビリ内容を臨機応変に見直す仕組みを活かした運営を行った。生活訓練では、他事業所の見学などを通し、利用者の主体性を引き出す活動を提供するための面談の活用や、グループ活動の方法を工夫し個別ワークの時間も確保すること等、活動内容に柔軟さは残しつつ、活動メニューは計画的に継続性を持たせるよう取り組んだ。

3) 職員育成

市内の自立訓練事業所や国立障害者リハビリテーションセンターへの見学を実施した。はばたき（生活訓練）の強み・課題を整理し、プログラム内容の見直しにつながった。12月に都内自立訓練事業所が集まる研修会に職員 2 名参加、2月には全国障害者自立訓練事業所協議会主催の SIM 導入研修（ZOOM 開催）にも参加し、効果的な生活訓練プログラム実施と評価について学ぶ機会を設けた。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 事業運営	<p>(1)「社会生活の自立度評価指標 (SIM)」の運用をすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 回の研修会に参加し、はばたきで進捗が滞っている課題を整理した。評価基準・場面を明確にし、実施手順を整えた。 <p>(2)地域での活動に参加する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で開催されているボッチャ交流会や、ボッチャ練習会に定期的に参加した。活動がきっかけで、利用者が個人でボッチャ交流会に申込み、地域のチームに加入するなど、地域への活動の輪が広がった。 ・ 希望する利用者には、市役所庁舎実習や社会福祉協議会の主催している「ちょいジョブ」にも参加した。 	<p>研修会での学びを活かし次年度から運用がはじめられるよう、役割分担し取り組む。また、利用することとなった新規利用者から、試行ではじめる。</p>
2. 利用者支援	<p>(3)利用者の活動範囲や関わる人の輪を広げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外出プログラムでは、近隣の飲食店を調べ、利用者ミーティングで店を決め、予約 	<p>コロナ以降、飲食を伴う外出や調理実習を控えていたが、環境を整え再開を目指す。</p>

	<p>を取り、公共交通機関で移動するまでを、利用者が企画した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20歳を祝う会では、先輩からの応援メッセージを2名の利用者に読んでもらった。文章を考え練習し、会で読み上げることが自信につながった。 ・就労継続支援事業D型（以下「D型」という。）と合同の手話勉強会を実施した。D型の聴覚障害のある利用者と手話でコミュニケーションを取ろうとする様子がみられるようになり、相互理解が深まった。 ・D型と連携し、給湯器解体や内職作業を活動に導入した。利用者支給金の規定を整え、12月から支給金も支給を開始した。利用者によっては、活動のある日は、自分から道具を準備して、作業にとりくむなど活動参加や就労へのモチベーションが向上している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・D型と連携し、給湯器解体や内職作業を続ける。令和7年度の実績をもとに、支給金額の見直しを行う。 ・大規模改修による移転作業も控えており、スムーズな移行が出来るよう整える。
--	--	---

3. 利用者の状況等

① 利用者の推移（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

新規利用者	生活訓練：2人	サービス等につながっていない8050世帯（1人） 精神科退院後、GHで生活をはじめた（1人）
	機能訓練：2人	2名とも介護保険2号保険者
退所者	生活訓練：1人	移行先が定まらず修了、相談支援専門員に引継いだ。
	機能訓練：3人	就労継続支援B型（1人）、デイサービス（介護保険）

② 年齢別利用者数（令和8年3月31日現在）

生活訓練

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0人	1人	2人	1人	4人	1人	9人

機能訓練

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0人	0人	0人	0人	2人	0人	2人

③ 障害別利用者数（重複あり）（令和7年3月31日現在）

生活訓練

精神障害	発達障害	知的障害	てんかん	脳血管障害	身体障害	難病
3人	2人	1人	2人	1人	2人	1名

機能訓練

精神障害	脳血管障害	頭部外傷	難病	脊椎損傷	言語障害	身体障害	てんかん	高次脳機能障害
0人	2人	0人	0人	0人	2人	2人	0人	0人

④ 1日平均利用者数

生活訓練<開所日：月・水・木・金曜日> 平均 4.3人 (単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
令和7年度	4.2	3.4	3.8	3.8	3.7	4.0
令和6年度	3.9	3.2	3.1	2.1	2.6	2.7
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和7年度	4.2	5.0	4.9	5.0	5.1	4.9
令和6年度	3.6	4.1	4.2	4.7	4.3	3.4

機能訓練<開所日：火曜日> 平均 4.2人 (単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
令和7年度	3.8	5.0	4.3	4.8	4.8	5.0
令和6年度	2.8	2.0	2.0	1.6	3.3	3.0
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和7年度	4.3	5.0	4.6	4.0	4.0	2.0
令和6年度	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0

⑤ 施設及び病院等訪問 令和7年度 実績18回

見学先事業所

サービスの種類	事業所名
就労継続支援B型	たんとの会、ともしび工房、キッチンさかえ、ほほえみワークセンターあい、ゆずりは、マナビバ、さつき共同作業所
就労移行支援	レジリエンス、リーモ国分寺、ポートビズ国立、国立障害者リハビリテーションセンター
生活介護	たんとの会
自立訓練	トライフル国分寺、さつき共同作業所
短期入所	えんじゅ
介護保険	リハプライド、サロンデイ、一期一笑

※利用期限を控えた利用者とともに、はばたき修了後の日中活動先の選定のため事業所見学を行ったほか、職員研修の一環で市内の自立訓練事業所の見学も行った。

4 就労継続支援B型どーむ

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

令和7年度は、課長・常勤職員の異動があり、核となるスタッフの半数以上が代わりスタートしたこともあり、安心安全な食を提供し活動を継続することを目標に取り組んだ。就労支援会計の収支改善については、喫茶の座席数を増やす、給湯器解体作業や内職を新たに取り組む等、赤字にはいならず年度を終えることができた。環境が変化した中で、積極的に取り組んだ成果と捉えている。

2) 利用者支援

家族、相談支援専門員、関係機関と連携し、「生活全体の中で働くこと」を捉えた支援の視点が必要なことを確認した。勤怠が安定していない利用者には、個別支援を併せて行った。利用者・職員間で具体的な説明や質問を行い、コミュニケーションを重ねることで、就労事業全体でチームを運営していることが意識できるよう取り組んだ。

3) 職員育成

職員育成については、課長面談や運営会議等を活用し、個別サポートが必要な職員に対しては、定期的な面談を実施した。スタッフ会議は、利用者の個別支援計画策定のタイミングで、ケース検討を行い、支援の課題・ケース見立ての視点を共有した。日々の支援では、苦慮する対応についてはその場で主任・課長と共有し、ともに対応する場面を作るなど工夫し、職員へのフィードバックを行うよう努めた。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 新たな事業展開	<p><u>(1)店舗内の席数を増える</u> 7月から座席を6→17席に増やした。</p> <p><u>(2)商品価格の見直し</u> 喫茶の価格改定をしたが、価格改定による売り上げへの影響はそれほどなかった。スイーツは原価計算を行い、価格整理をし、令和8年4月から変更価格で販売する予定。</p> <p><u>(3)利用者が中心となって活動し、一人ひとりの達成感と自信につながる</u> 利用者会議で意見を出し合い、改善に取り組んでいる。例として、レジ横に定食の食券を置き、レジで客を待たせないような工夫を取り入れた。</p> <p><u>(4)お仕事ネットワークの共同受注案件の作業の受注を検討する</u> ・国分寺障害者お仕事ネットワークの受注作業を適宜受けるようにした(紐むすび、自治会の敬老のお祝いクッキーなど)</p>	<p>スイーツ商品の価格変更による売り上げへの影響をみていく。</p> <p>利用者会議への参加が増えるよう、開催曜日・時間の検討が必要。利用者へアンケートを取る。</p>

<p>2.利用者支援 について</p>	<p>・給湯器の解体作業をはじめた。作業工程が細分化でき、どの利用者でも何かしらの仕事ができることがわかり、月2回の作業日を設けた。</p> <p>(1)新規利用者の受入れ 13名の見学を受入れ、2名の方と利用契約を結んだ。</p> <p>(2)工賃と評価の見直し 工賃と工賃評価の見直しを行った。工賃については、作業工賃と手当（研修・会議・皆勤）を分けて設定した。評価については、利用者の活動内容が工賃に反映できる評価の仕組みと、評価内容を利用者職員共有し活動するフォーマットを作成した。4月から運用する予定。</p>	<p>障害者センター大規模改修もあり、活動内容の見直しを行うため、受注作業は継続する。給湯器に関しては、月2回→週1回に活動を増やす。</p> <p>新規利用者が、継続して活動できるよう整える。 大規模改修で移転した時、交通機関利用の負担が大きいと捉えている。課題として、市とも共有する。</p>
-------------------------	--	--

3. 利用者の状況等

1) 利用者の状況

① 年齢別利用者数（令和8年3月31日現在） 平均年齢42.6歳 (単位：人)

10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
0	3	3	3	4	1	14

② 1日平均利用者数 (単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用数	6.1	6.0	6.0	5.9	6.0	7.3
前年度	(6.5)	(7.2)	(6.6)	(6.8)	(6.2)	(7.3)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用数	6.2	6.3	7.0	6.7	6.3	6.5
前年度	(7.0)	(6.9)	(7.1)	(6.9)	(5.8)	(6.4)

③ 利用者の障害の状況（重複障害あり） (単位：人)

精神障害	てんかん	知的障害	発達障害	肢体不自由	聴覚障害	高次脳機能障害
7	3	7	1	1	3	0

④ 障害支援区分 (単位：人)

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4
4	1	1	7	1

⑤ 活動内容

【活動種別】

種別	活動内容	活動曜日
喫茶いずみ	調理・定食、ドリンク等の提供・店内清掃	月・火・水・木・金
スイーツいずみ	製造・店頭販売・地域のイベントに出店	月・水・木・金・土(第2・4)
清掃	市役所(第2庁舎)の清掃業務 ※令和7年1月より市役所新庁舎の清掃業務	火 (祝日の場合は土曜日に振替)
受注作業	給湯器の解体、内職 他	第1・3金曜日(R7.9月~)

【活動実績】

	主な活動	活動実績
喫茶	喫茶いずみ運営(調理・接客)・スイーツ製品の販売	上記記載
スイーツ	焼き菓子製造、イベント出店など	上記記載
清掃	国分寺市役所庁舎清掃	上記記載
その他	お仕事ネット共同受注作業、他	上記記載
地域活動	○東京経済大学コラボ事業 (生協での常設販売、販売会の開催、会議参加) ○地域行事への参加 ○お仕事ネットワーク活動への参加	○販売会2回、会議年9回 生協販売月1~2回納品 ○年7回 ○定例会年12回、
その他	○利用者会議 ○家族・利用者懇談会 ○親睦会 ○感染症予防研修 ○食品衛生に関する研修への参加 ○実習受け入れ	○年11回 ○年1回 ○年2回 ○年1回(手洗い研修) ○年2回 ○年5人

5 短期入所事業・日中一時支援事業えんじゅ

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

短期入所事業は、同室2名利用や連泊での受入れを行い利用日数が昨年度より増え、比率は男性62%、女性38%であった。精神障害の方の利用が昨年度は96日、今年度160日と増えている。介護人との一対一の支援に「安心する・買物や調理と一緒にチャレンジできる」など様々な経験の場として活用され、自立や生活の安定に向け利用されている。日中一時支援事業は、学齢期の登校できない曜日の利用、服薬調整中の利用など、平日昼間の定期的な利用が見られた。自宅以外の場所で過ごすことで地域社会とのつながりを目的とした利用が予想外にあり、令和6年度と比較して時間数が増えた。

2)利用者支援

医療的ケアの方の短期入所利用が減った。要因として、ご本人の体調不良で日中活動の休みに伴うキャンセルや利用を控えるケースがあげられる。その他、夜間に発作など体調変化が増えて利用を控える、経口摂取が難しくなり体力が低下したなどの理由があった。児童の利用では日中も短期も、行動面で突発的な動きが多く介護人が反応できない、説明するが理解されないなど、課題として捉えている。

3)職員・介護人育成

男性介護人の確保について、4月に求人サイトで1名、12月に福祉のしごと相談面接会で1名、ホームページからの応募も初めてあった。3月に学生介護人の卒業や転居した介護人もあり、男性介護人の不足は継続した課題となっている。9月上半期介護人会議に9名が出席、身体拘束について動画視聴意見交換を行った。下半期介護人会議は20名が出席、虐待防止・衛生管理・記録の書き方について動画視聴と交流を図った。その他法人内研修や外部研修で強度行動障害者支援者養成研修などに参加した。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 安心して受入できる環境を整える	緊急入所保護の受入の際のフロー図の確認を市と行い、見直しを図っている。令和7年度はキャンセル1件、2泊3日1件の実績があった。	フロー図を関係機関で整正中。大規模改修工事に伴い、緊急入所保護受入れの際の部屋の確保、安全に受け入れができる環境を市とも確認して進めていく。
2. 介護人の確保と育成	月10泊以上泊る介護人が1名従事しているが、男性介護人の不足が続いている。深夜帯に勤務する介護人が安心して働けるよう、事業主が費用を負担する健康診断を行い健康管理に努めている。	利用ニーズに対応できるよう、泊り可能な介護人の確保を継続する。また、障害児の特性を学び支援に活かすため、職員も介護人も積極的に研修等に参加する。
3. 受入枠の工夫	・2名同室利用と連泊利用は、スケジュール調整が可能な範囲で取り組んだ。 ・スマホや法人ホームページからWEBでの受付（抽選）・申込（利用）が可能となり毎月60件前後の申込みがあり、約6割がWEBを活用している。空いた時間でスマホ操作で申込み、利便性があがったと捉えている。	・大規模改修工事スケジュールを把握し、継続してサービスが提供でき、安全におこなえるよう受入れ枠を工夫して調整していく。 ・WEBの更新を毎月行い、安定して運用できるように取り組む。 ・緊急時・災害時に利用者に提供できる、ムース食や刻み食の確保を検討する。

3. 利用者の状況等

1) 活動実績

① 短期入所事業

(単位 日)

	知的	児童	身体	精神	難病	合計	令和6年度
4月	30	8	24	10	0	72	61
5月	34	7	22	10	0	73	64
6月	43	5	22	9	0	79	70
7月	54	12	20	12	0	98	83
8月	37	14	21	13	0	85	82
9月	36	10	19	12	0	77	82
10月	38	12	26	8	0	84	81
11月	34	8	22	18	0	82	78
12月	39	12	21	14	0	86	69
1月	33	6	21	16	0	76	71
2月	33	11	22	22	0	88	67
3月	38	10	28	16	0	92	74
合計	449	115	268	160	0	992	882

※平均利用率、1.35/日、障害別内訳：知的45%、児童11.6%、身体27%、精神16%

② 日中一時支援事業

(単位 時間)

	知的	児童	身体	精神	難病	合計	令和6年度
4月	101	67	61	0	0	229	179
5月	98	51	62	0	0	211	168
6月	103	51	49	0	0	203	210
7月	123	92	55	0	0	270	231
8月	98	126	65	0	0	289	279
9月	141	63	87	0	0	291	192
10月	94	77	115	0	0	286	198
11月	143	92	79	0	0	314	232
12月	103	112	73	4	0	292	212
1月	101	75	81	0	0	257	197
2月	85	86	78	0	0	249	204
3月	85	82	111	0	0	278	241
合計	1,275	974	916	4	0	3,169	2,543

※平均利用時間8.7時間/日、障害別内訳：知的40%、児童31%、身体29%、精神0.1%

③ 緊急入所保護事業

令和6年度は数値としての実績はなかったが、令和7年度は、12月に結果的にキャンセルとなったが1件、3月には2泊3日にて1件発生した。

④医療的ケアのある方の日中一時支援事業利用

	令和7年度			令和6年度		
	人数	日数	時間数	人数	日数	時間数
4月	0	0	0	0	0	0
5月	1	1	2	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	1	1	5
8月	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0
10月	1	1	3	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	1	1	5
2月	0	0	0	0	0	0
3月	1	2	12	0	0	0
合計	3	4	17	2	2	10

※3月1名12時間は緊急入所保護利用者

⑤医療的ケアのある方の短期入所事業利用

	令和7年度		令和6年度	
	人数	日数	人数	日数
4月	2	4	2	4
5月	1	2	2	4
6月	1	2	2	4
7月	1	2	2	7
8月	2	2	2	4
9月	1	2	2	4
10月	1	2	2	4
11月	1	1	2	4
12月	1	2	2	3
1月	1	1	3	6
2月	0	0	2	4
3月	0	0	2	3
合計	12	20	25	51

※人数と日数ともに、昨年度の約半数以下

⑥ キャンセルと介護人休業手当状況

	短期入所	日中一時	令和7年度 休業手当金額	令和6年度 休業手当金額
	日数	時間		
4月	2	9	8,791	34,445
5月	2	25	11,287	23,766
6月	4	23	32,619	2,340
7月	2	8	26,630	0
8月	2	22	23,600	15,091
9月	6	15	18,673	9,468
10月	6	16	18,938	39,838
11月	8	16	45,537	31,587
12月	0	19	7,985	23,006
1月	4	8	5,016	3,198
2月	6	16	7,037	0
3月	4	4	18,730	18,243
合計	46	181	224,843	200,982

6 保健衛生事業

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

支援職員の医療面のスキルアップのサポートとして、引き続き定期的な研修の開催やたん吸引等の研修受講を計画的に行い、看護師と支援職員の連携強化に努めた。下半期には事業者登録を完了し支援職員の医療的ケア実施の体制を整え、運用を開始した。また、呼吸器装着者の支援では、段階的な進捗を図りながら、単独通所の安全な試行に努めた。感染症対策では、嘱託医と連携し、情報収集と共有を図りながら感染症拡大防止に努めた。また、各事業所で手洗い研修を開催し、衛生面の知識向上のサポートを行った。職員の健康管理として、引き続き健康診断後の医療機関の受診の勧奨を行うなどアフターフォローに努め、自身の健康管理への意識の向上に努めた。休職者については、個々の復職プログラムに沿って産業医と連携を図りながら適切に復職できるようにサポートを行った。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 医療的ケアの必要な方の支援の充実	利用者の高齢化や重度化への対応として、支援職員のたん吸引等の研修を計画的に行い、対象利用者3名に対し6名の職員が認定特定行為業務従事者認定証を取得し、登録喀痰吸引等事業者の登録を行った。実施スケジュールを作成し、実施時には看護師が見守りを行うなど体制を整え、安心安全な医療的ケア実施に努めた。呼吸器装着者の支援では、単独通所に向けての取組として、緊急時対応訓練を継続し、医療的ケア指示書やマニュアルの見直し更新を行い、計画的な進捗を図り安全な試行に努めた。	利用者の高齢化や重度化により医療的ケアが増えているため、支援職員と看護師の連携強化が必要となる。ガイドラインに沿って、支援員が医療的ケアを安全に実施することや、研修受講を計画的に行い、医療面のスキルアップサポートを行い、継続できる体制の整備に努め、看護師と支援職員の連携強化を図る。引き続き緊急時対応訓練は定期的実施することで、緊急時に速やかに対応できる体制を整えていく。さらに、災害時の避難訓練の実施など、安全に過ごすための体制の強化を図っていく必要がある。
2.感染症対策	嘱託医と連携を図り、流行状況に合わせて感染症に関する情報共有、提供を引き続き行った。インフルエンザの流行時期に合わせて職員と利用者を対象に予防接種を実施し、感染症拡大防止に努めた。また、各事業にて手洗い研修を行い、衛生面の知識向上に努めた。	引き続き、感染症の流行状況に合わせて行っていく。手洗い・嘔吐物処理研修についても必要に応じて継続して行っていく。
3. 利用者や職員の健康管理	利用者の個々の状況に合わせて健康診断受診のサポートを行った。嘱託医と結果を共有し、必要に応じて事後のサポー	引き続き嘱託医、産業医と連携を図り、利用者や職員の健康診断の受診サポートを行い、健康状態の把握、管理を行っ

<p>4.看護師の体制づくり</p>	<p>トを行った。職員の健康診断では、産業医と結果の共有を図り、対応が必要な方には医療機関の受診勧奨を行い、健康管理のサポートを行った。休職者に対しては、引き続き復帰プログラムに沿って主治医の診断・指示のもと労働環境を整えた。</p> <p>たん吸引の指導員を担い、計画的に支援職員の医療面のスキルアップサポートを行い、外部講師による医務研修を年2回開催し、継続して連携の強化を図った。また、法人の職員として、必要な会議への参加や全体研修に参加するなど共有を図った。</p>	<p>ていく。休職者が発生した場合にも引き続き産業医と連携を図り復帰プログラムに沿ってサポートを行っていく。</p> <p>継続して行っていく。</p>
--------------------	---	--

3. 事業内容

1) 生活介護事業 太陽

- ①健康診断：毎月第1・第3金曜日 計24回実施
- ②定期健康診断：年1回（嘱託医1回・市の保健事業や医師会健診も活用した）
- ③健康相談：必要時に対応（本人・家族・職員対象に、必要時嘱託医との面談を行い医療機関を紹介した）
- ④歯科健診：年1回（6月26日）
- ⑥ブラッシング指導：月に1回 計12回
- ⑦感染対策：インフルエンザ予防接種勧奨・実施
- ⑧細菌検査年2回（全員異常なし）
- ⑨受診同行11回・家庭訪問4回・緊急時対応3回・関係者会議6回・医療的ケア対応（人工呼吸器の管理・経管栄養・気管切開部の管理・痰の吸引・ネブライザー・導尿・褥瘡処置・発作時座薬挿肛・浣腸）・マニュアルの見直し・主治医との連携
- ⑩毎日の健康チェック、服薬管理、活動への参加、送迎添乗
- ⑫主治医・地域医療機関との連携
- ⑬リハビリ会議・PT/OTとの連携・福祉用具の作成や導入の支援
- ⑮摂食支援：STとの連携、摂食会議への参加
- ⑯感染対策：手洗い研修1回

2) 自立訓練事業 はばたき（機能訓練・生活訓練）

- ①必要時バイタル測定・体重測定・外傷処置・栄養相談・健康相談
- ②随時・定期健診の受診勧奨
- ③細菌検査（年2回）利用者全員異常なし
- ④ブラッシング指導2回

3) 地域活動支援センターつばさ

- ①外傷処置・体調不良者の対応
- ②健康相談・病院紹介・電話相談(随時)

4) 短期入所事業・日中一時支援事業えんじゅ

- ①利用者の把握と体調不良時・急病・外傷などの対応、健康相談
 - ②救急セットの管理、衛生管理
 - ③痰の吸引・経管栄養など医療的ケアを必要とする利用者の対応
- 5) 就労継続支援事業B型 どーむ
- ①毎月の細菌検査：（毎月全員異常なし）
 - ②感染対策：手洗い研修1回
 - ③随時：健康相談・栄養相談
 - ④感染対策：手洗い研修1回
- 6) 生活介護事業この里
- ①健康診断：毎月1回 計12回
 - ②定期健康診断：年1回（市の保健事業を活用した）
 - ③健康相談：必要時に対応
 - ④感染対策：インフルエンザ予防接種勧奨・実施
 - ⑤細菌検査年2回（全員異常なし）
 - ⑥随時：健康相談・栄養相談・ブラッシング指導
 - ⑦感染対策：手洗い研修1回
 - ⑧ブラッシング指導1回
- 7) 共同生活介護事業・ケアホームひかり・ケアホームこの葉
- ①利用者の健康管理・入院時の対応・健康相談・感染症対策
 - ②衛生管理・家族との連携
- 8) 職員
- ①健康診断 年1回（深夜業従事者 年2回）
 - ②細菌検査 年2回 対象職員のみ（5月、1月：全員異常なし）
 - ③緊急受診・健康管理と健康相談・メンタルヘルス相談・予防接種の勧奨など
 - ④手洗い研修
- 9) 要医療的ケア者の受け入れ状況
- ①通所：経管栄養（6名）たんの吸引（6名）ネブライザー（2名）
呼吸器（3名）褥瘡処置（1名）
日中一時：経管栄養（4名）たんの吸引（1名）
短期入所：経管栄養（1名）たんの吸引（1名）夜間不要
 - ②医療的ケアの実施、実施に向けて主治医との面談・指示書依頼、家庭訪問
- 10) 研修
- ①医療的ケア研修実施 2回（外部講師による）
 - ②職員全体研修参加（外部講師による）3回：看護師全体
 - ③内部研修参加 看護師全体

Ⅲ KOCO・ジャム事業部門

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

各事業において事業運営が安定してきたと同時に、明確になった課題（環境設定や職員体制、支援など）に取り組む一年であった。それぞれの事業において、試行錯誤しながらではあったが、年間を通して概ね順調に進捗したと捉えている。収支の面においては、生活介護事業この里(以下「この里」という。)の19名での運営と高い利用率、KOCO・ジャム短期入所事業(以下、「短期入所事業」という。)の稼働率の向上、居宅介護事業ウイング(以下「ウイング」という。)の移動支援時間数の大幅な増加などにより安定が図れた。一方で、共同生活援助事業ケアホームひかり、ケアホームこの葉(以下「ひかり」「この葉」という。)における1名の退居者、怪我や入院での長期不在者、この里の年度末における退所者など、収入が下がる要因もあり目標の数値には達しなかった。KOCO・ジャム全体において地域を意識した事業運営を行うなかで、ひかり・この葉では地域連携推進会議を開催し、地域との新たな関係性を構築できる機会となった。この里では、地域のポスティング事業者や輸入品販売業者と契約し、新たな仕事を獲得すると共に、地域に溶け込む一歩となった。ウイングにおいては、移動支援が増えることによって、ご利用者が地域に出る機会が増え、地域資源の活用も進んだ。

2) 利用者支援

この里では、利用者それぞれの特性に応じた作業方法や作業環境を整えた。また、作業活動、余暇活動において、地域を意識した取組が行えた。ひかり・この葉では、年月の経過によりご本人及びご家族の取り巻く環境変化が大きく、変化に戸惑いながらも新しいサービス（訪問マッサージ、訪問リハビリ、訪問歯科、移動支援、週末外出など）を検討・導入する機会となった。短期入所事業では、上半期3名、下半期2名の方がグループホーム入居となり、事業の目的である“グループホーム入居、地域での一人暮らしを目指した体験の場、実践の場”としての成果を感じることができた。ウイングでは、ヘルパーの増員により移動支援の時間数が大幅に増えた一方で、育児支援においては、希望する事業所に利用者が直接申し込む形式に変更となり、依頼数が激減した。こども家庭センターと情報共有を行い、需要に応じたサービスの提供が行えるよう話し合いを行っていききたい。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

1) この里では、作業時は2グループに分け、1グループは2階の多目的室を使用し落ち着いた環境を提供した。また、座席の配置を整えたり、独立した空間を用意することで、自閉症の方が安心して活動できるよう取り組んだ。作業活動では自主生産品の開発、また、地域のポスティング業者等と契約し新たな作業を獲得した。余暇活動では、月2回の運動プログラムにおいて、東京経済大学尾崎ゼミの学生がボランティアとして参加している。地域の催事においては、今まで参加していた催事に加え、新しい企画にも参加し活動の場を広げた。この活動を継続できるよう体制を整え、かつ活動を発展できるように図っていききたい。グループホーム入居や転居、他の事業所への移行などで利用者数も変動することが予想されるため、定員20名をどのように実現するのか考えながら新規募集を行っていききたい。

- 2) ひかり、この葉では、高齢化・重度化への対応として、アセスメント様式の活用を継続し、心身の変化を把握するよう努めた。また、BCP計画に沿ったマニュアルを作成し、災害時においても安心安全な生活を継続できるよう取り組んだ。また、ご利用者の気持ちの発信、自身での選択がより明確になり、利用者が希望される生活の実現に向けた支援に取り組んだ。実現に向けては、各計画相談やサービス提供事業所などの関係機関との連携が必須であるため、今後も連携を深めていきたい。また、個々のニーズを把握する機会、発信する機会としても、利用者自治会を全てのユニットで実施できるよう取り組んでいきたい。
- 3) 短期入所事業では、スタッフ会議にてケース検討を行い、個別の支援マニュアルや振り返りシートを活用することで、統一した支援を行えるようになった。その結果上半期3名、下半期2名、合計5名の方がグループホームに入居となった。週末の在寮人数が少ない曜日においては、共同生活を十分に体験することが難しくなるため、3ユニット合同の週末活動等実施し、体験の機会を多く提供していきたい。
- 4) ウイングでは、居宅支援、同行援護、移動支援、育児支援と幅広いニーズに応えるだけのヘルパー確保には至らなかったが、要望の多い移動支援に関しては、新規依頼に対応できるヘルパーを確保できた。居宅支援に対応できる資格所持ヘルパーの確保は苦戦しているが、介護福祉士を所持する担当課長の支援のフォローやヘルパーに同行してのOJTにより、滞りなく支援することができた。ひかりの週末外出に協力する形でグループ支援を開始し、限られたヘルパーでより多くの需要に応えることが出来るようになってきた。支援を軌道に乗せ、スムーズに継続していけるよう、また新たなグループ支援が行えるよう取り組んでいきたい。

3. 人材育成

正規職員については、人事考課制度の試行を開始し、体系的な人材育成に取り組み始めた。契約職員もそれに準じて開始していく。非常勤職員を含め、各事業においては、その事業に則した内容の研修にも取り組んだ。この里においては、強度行動障害支援者養成研修を受講し、支援に活かした。ひかり・この葉においては、個別支援計画書の共有、それに応じた支援について話し合うことで、各職員のスキルアップを図った。また、ケース記録に着目し、そこを中心に支援について考察できるような取組を行った。ウイングにおいては、移動支援連絡会のガイドヘルパー養成講座や合同ヘルパー研修を活用して、ヘルパーのOJTに取り組んだ。

1 生活介護事業この里

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

令和7年度は新規利用者はなく、2月に1名が退所し男性10名、女性8名での計18名で終えた。武蔵台学園3年生の実習受け入れは行ったが、入所にはいたらなかった。定員20名には満たなかったが、利用者の出席率は90%を超え、安定して通所することができた。生活の拠点を新たにグループホームへと移行することを検討されている方、事業所の移行を検討されている方とおり、状況の変化が予想された為、当初予定していた見学会、体験会の実施までにはいたらなかった。

2)利用者支援

今年度も地域での活動に重点を置き、新たに競艇場での販売、樹林地まつりへの参加をし、地域参加の場を広げた。また、生活介護事業太陽のエアロビクス活動に定期的に参加し、利用者同士の交流機会を設けた。家族会では新たな試みとして、プラスワン配食サービスの実食会、作業体験を行った。体験型の家族会にしたことで、利用者の普段の様子が良く分かったと家族からは好評を得た。個別コンサルテーションを受け、自閉症、強度行動障害の障害特性を考慮した活動室の環境づくりに力を入れた。座席位置の工夫、プログラム提示を分かりやすくするなど構造化を図り、安心して落ち着いて過ごせる環境を整えた。全体では活動室にソファ2脚を設置したことで、休み時間はソファでくつろぐ利用者も多く、活動室が快適な空間になるようにした。

3)職員育成

職員それぞれが興味のある研修に参加することを推奨した。リーダー研修、強度行動障害支援者養成者研修、メンタルヘルス研修などに参加し、各々見識を深めた。12月開催の基幹相談支援センター主催スキルアップ研修には、職員全員が積極的に参加し、強度行動障害について学んだ。同じ研修を全員が受けたことで、共通の意識をもって現場での支援を検討することができた。チームとして支援を考えていくという視点からも、とても良い経験となった。また、生活介護事業太陽と職員の交換研修を行った。常勤職員1名が2か月間太陽で実習をした。課題に取り組みながら他事業での支援を経験し、この里での支援に活かせるように研修の機会を設けた。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 利用者確保及び利用者のステップアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・2名の利用者がグループホーム入居にいたった。内1名は2年前よりグループホーム入居を目指し、体験入居やショートステイの利用を重ねてきた。経験を重ねて力をつけ、グループホーム入居することが出来た。 ・1名の利用者が本人の希望により、市内の生活介護事業所の体験利用を行った。この里を利用しながら現在は利用希望申請をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市外のグループホーム入居に伴い1名が退所。1名が他事業所への移行を申請中。ステップアップを支援していくと共に、この里を退所した場合を見越しての利用者獲得をしていかなければならない。

2.作業活動	<ul style="list-style-type: none"> ・封筒作成の受注が停止していることを受け、今年度よりバスボム作りを開始した。他にも缶バッジやステッカーなど自主生産品の展開に力を入れた。自主生産品の売り上げが上がり、工賃アップにつながった。 	<p>障害者センターの大規模改修により、出張販売が11月から出来なくなる。別の販路を検討する。来年度は東京経済大学尾崎ゼミとコラボして活動するため、大学内でのデモ販売や生協での販売ができないか検討する。</p>
3. 余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> ・成人を祝う会、お別れ会などで利用者が司会を務めた。利用者自身が主体となり活動を展開することが出来た。 ・外出の機会を多く設けた。多摩六都科学館、調布飛行場隣接の公園、ショッピングモール、井の頭動物公園などに出向き、社会経験を積めるよう支援した。 	<p>ただ出掛けるだけではなく、外出のスケジュール作成、利用予約の電話、事前学習、公共交通機関の利用、振り返りなど、利用者が主体となることができることを増やせるような支援を組み立てていく。</p>

3. 利用者の状況等

1) 利用者の状況

年度当初、利用契約者数19名で開始。新規利用者はなく、2月に市外のグループホーム入居に伴い1名退所。

① 利用者の推移（令和8年3月31日現在）

新規利用0名	終結者1名
--------	-------

② 年齢別利用者数（令和8年3月31日現在） 平均年齢32.3歳 （単位：人）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0	10	3	4	0	1	18

③ 利用者の障害支援区分（令和8年3月31日現在） 平均4.5 （単位：人）

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	1	8	8	1	18

④ 1日平均利用者数 平均17.4人 （単位：人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
17.9	18.0	17.7	17.8	17.0	18.0
10月	11月	12月	1月	2月	3月
18.4	16.7	17.8	17.0	15.2	17.2

⑤ 障害手帳（令和8年3月31日現在） （単位：人）

愛の手帳				精神保健福祉手帳			身体障害手帳					
1度	2度	3度	4度	1級	2級	3級	1級	2級	3級	4級	5級	6級
	1	2	4	1					1			

⑥活動状況

【活動時間】

1日の流れ ※（ ）内は月・金、状況に応じ、グループ別に午前午後に分けて実施。

8:15	送迎開始①	13:00	作業 3コマ (余暇活動)
8:30	職員朝礼	14:00	休憩
8:55	送迎開始②	14:15	作業 4コマ (余暇活動)
9:00	利用者受け入れ	15:00	片付け・体操
9:45	朝礼・体操	15:20	掃除・降所準備
10:00	作業 1コマ	15:50	終礼
11:00	休憩	16:00	送迎開始・降所
11:15	作業 2コマ	17:30	清掃・消毒
11:45	午前作業終了		記録整理・職員ミーティング
12:00	昼食・昼休み		翌日準備
			職員退勤

【一週間の主なプログラム】

	月	火	水	木	金
1コマ	仕入れ 野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	仕入れ 野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り センター販売	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り
2コマ	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り センター販売	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り
3コマ	スイミング/ 音楽/ その他余暇活動	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り 公園ボランティア	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り 運動プログラム	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り センター販売	フラダンス/ 話し合い/ その他余暇活動
4コマ	スイミング/ 音楽/ その他余暇活動	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り 公園ボランティア	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り 運動プログラム	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	フラダンス/ 話し合い/ その他余暇活動

※武蔵国分寺公園ボランティアは、月2回(第2・第4)

※運動プログラムは月2回程度

※障害者センターでの販売は、毎週木曜日に実施した。

※上記の作業に加えポスティング、自主生産品作成、不定期でのお仕事ネットの作業・買物代行、また、時期により法人広報紙封入作業、ニュースレター配架作業を実施した。

【行事】

4月	1日入所式	利用者19名、職員7名
7月	26日戸倉盆踊り	職員7名
	23,29,30日オミビスタ体験	障害者センターで実施。 利用者19名、職員7名
8月	26日ブラッシング指導	利用者19名、職員7名
9月	3日競輪場販売	利用者4名、職員2名
10月	5日市民活動フェスティバルイベント 5～31日市民活動フェスティバル	利用者2名、職員2名 分散型イベントとして開催。
	11日万葉の里オープンデイ	利用者17名、職員7名
	23日避難訓練	利用者19名、職員7名
11月	2日国分寺まつり	利用者3名、職員3名
	22～30日国分寺市ぶんぶんウォーク	スタンプラリーの拠点として参加。
	29日ふらっとけやき公園	利用者2名、職員2名
12月	13日樹林地まつり	利用者2名、職員2名
	19日競艇場販売	利用者4名、職員2名
	24日クリスマス会	利用者19名、職員7名
	25,26日大掃除	利用者19名、職員7名
1月	12日笑いと歌の会	利用者2名、職員2名
	23日家族会	参加家族14名
2月	25日ブラッシング指導	利用者18名、職員6名
3月	21日Heart de Festa	利用者14名、職員6名 フラダンス発表
	24日家族会	参加家族13名
	31日納め会お別れ会	利用者18名、職員6名

⑦ その他

*利用者工賃：毎月25日支給

*見学/実習受入れ：武蔵台学園3年生1名、2年生1名、その他見学4件、

利用実習2名

社会福祉現場体験実習4名(杏林大学)

社会援助実習2名(東洋大学、武蔵野大学)

夏体験ボランティア4名

早稲田実業高等学校ボランティア体験6名

*地域施設活用：武蔵国分寺公園、国分寺市障害者センター、本多公民館、国分寺第1中学校

けやき公園、窪東公園、こくぶんじ市民活動センター、いずみホール

多摩川競艇場、京王閣競輪場、国分寺新町樹林地、多摩障害者スポーツセンター

国分寺市第十小学校

2 共同生活援助事業 ケアホームこの葉 ケアホームひかり

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

令和7年度は、ご利用者の変化だけではなく、ご家族も含め取り巻く環境変化に応じて支援を行った1年だった。計画相談や他事業所などの関係機関と連携し、状況に応じた支援を行うことが出来た。災害時においても安心・安全に生活が継続できるように取り組んだ。令和7年度より開始となった地域連携推進会議においては、地域との関係性を深める機会となった。

2)利用者支援

令和6年度からの継続した働きかけによりご利用者の意思表示が明確になり、意思決定を丁寧に行いながら、それぞれが希望される生活の実現に取り組んだ。また、利用者自治会を継続し、余暇活動や日々の生活において、主体的に生活を送ることが出来ている。

3)職員育成

スタッフ会議において個別支援計画の共有を図り、支援について話し合うことで、統一した支援を行えるようになってきている。ご利用者の変化が顕著であった為、支援スキルが追いつかなかった点もあった。職員一人ひとりが、一定のスキルを持って支援できるよう努めていきたい。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 安心・安全な生活基盤作り	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント様式を活用し、利用者の心身の状況変化を把握し、それに応じた支援を提供することができた。ご家族の変化についても少しずつ準備が出来てきている。 ・BCP 計画のマニュアルに沿った避難訓練を実施した。e-ラーニングを活用した研修は行えたが、実践的な研修は実施出来なかった。 ・この葉：みらいユニットでは自治会を継続し、地域資源を活用した余暇活動が出来た。しかし、すべてのユニットで自治会を実施出来なかった為、この葉全体での余暇活動に繋がれなかった。 ・ひかり：ご自身の希望の発信、選択、実現という流れを作り、自分で生活を作る実感を持つことが出来た。そのことにより、更に生活の幅を広げることに取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者及びご家族の状況の変化は続いており、これからも課題になっていくと思われる。常に状況を把握しながら、適宜支援を更新できるよう整える必要がある。 ・避難訓練を実施しながら、状況に応じてマニュアルの更新を行う。また課題に応じた実践的な研修を行い、生活の一部として実践できるようにしていく。 ・各ユニットで利用者自治会を実施し、この葉全体で地域資源を活用した余暇活動を実施する。 ・引き続き、創意工夫をしながら、意思表示、意思決定ができる環境を提供していく。
2. 職場環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・男女のユニット間での連携は強化出来た。またこの葉、ひかり間での協力体制も 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後はバックアップ施設である障害者センターとも連携を深め、法人全体でグ

<p>出来ている。また、KOCO・ジャム内の他事業との協力体制も継続できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世話人⇔管理者では、j-mottoを活用した情報共有を行えた。また、ZOOMを利用して参加しやすい会議を持つことが出来た。 ・人事考課制度の試行期間が予定とおりに進まず、正規職員、契約職員は来年度から本格的な実施となる。非常勤職員における課題別の研修は実施出来なかった。 ・世話人会議において、各職員のOJT状況を共有し、世話人が主体となった職員の育成が行われた。 	<p>ループホームを支える協力体制を整えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・j-motto及びZOOMの活用は進んだが、十分活用しているとは言えず、より使いやすい運用を目指す。 ・正規職員及び契約職員に新しい人事考課制度、研修体系に沿って育成を行う。非常勤職員に対する研修計画をたて、実行する。 ・今後も世話人で情報共有、協議、振り返りを行い、職員育成に取り組む。そのことにより世話人の育成力向上を図る。
--	---

3. 利用者の状況等

1) 利用者状況

【ケアホームひかり】

① 利用者数 12名 (男性6名 女性6名)

② 年齢別利用者数(令和8年3月31日現在) 平均47.6歳 (単位:人)

20代	30代	40代	50代	60代	合計
1	1	6	3	1	12

③ 利用者の障害程度区分(令和8年3月31日現在) 平均4.1 (単位:人)

区分3	区分4	区分5	区分6	合計
2	6	2	2	12

④ 障害別利用者数(重複あり) (単位:人)

精神障害	知的障害	身体障害	合計
1	11	3	15

⑤ 行事

誕生会	利用者誕生日ごと
家族会	6月19日、男女ユニット合同にて実施
避難訓練	3月12日に実施。地震想定訓練として実施。

⑥ 会議等の実施状況

定例のスタッフ会議を毎月1回実施。その他、以下の会議を開催した。

名称	開催日等	内容
世話人会議	毎月1回、定期開催	2つのGHの運営面の調整、支援の見直し、家族支援、研修、職員育成など
個別支援会議	利用者の誕生日及び個別支援計画見直し時	個別支援計画案の検討、確認 相談事業所との連携

【ケアホームこの葉】

① 利用者数 15名 (男性 9名 女性 6名)

20代	30代	40代	50代	60代	合計
3	6	5	0	1	15

② 年齢別利用者数 (令和8年3月31日現在) 平均 38.0歳 (単位:人)

20代	30代	40代	50代	60代	合計
3	6	5	0	1	15

③ 利用者の障害程度区分 (令和8年3月31日現在) 平均 4.1 (単位:人)

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
4	2	3	0	6	15

④ 障害別利用者数 (重複あり) (単位:人)

精神障害	知的障害	身体障害	合計
1	14	5	20

⑤ 行事

誕生会	利用者誕生日ごと
家族会	7月24日に実施。3ユニット合同にて実施
避難訓練	10月20日に実施。地震想定訓練として実施。

⑥ 会議等の実施状況

定例のスタッフ会議を毎月1回実施。その他、以下の会議を開催した。

名称	開催日等	内容
世話人会議	毎月1回定期開催	2つのGHの運営面の調整、支援の見直し、家族支援、研修、職員育成など
個別支援会議	利用者の誕生日及び個別支援計画見直し時	個別支援計画案の検討、確認 相談事業所との連携

3 KOCO・ジャム短期入所事業

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

令和7年度は、男性ユニットにて1名、女性ユニットにて2名の新規受け入れを行い、年度末には男性3名、女性3名での運営となった。上半期において3名、下半期に2名がグループホームに入居となった。本事業を利用することにより、共同生活の楽しさ、難しさ等を体験し、この先のご自身の生活がイメージ出来たことによると捉えている。循環していくことで多くの方に利用する機会を提供できるため、各利用者が目標を達成し、次のステップに繋がられるように今後も取り組んでいく。

2)利用者支援

令和7年度は、今までの支援を活かし、安定した支援を提供することが出来た。受け入れから支援開始、支援の振り返りや課題に対する取組等、一連の流れを一つひとつ丁寧にしながら、経験を重ねた成果と考える。今後も多くの方を受け入れることを見据えて、支援力向上に努めたい。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 運営の安定	<ul style="list-style-type: none"> ・5名の方がグループホーム入居となり、循環することで、利用希望者の需要に応じて受け入れる体制を整えられた。 ・積極的な募集活動は行わなかったが、計画相談や利用者からの紹介により、新規の利用の応募があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・需要に応えられるように、需要の掘り起こしをしながら、新規利用者の募集を行う。 ・ロコミの募集に加えて、更に事業内容の理解を深めてもらうため、計画相談等に支援状況や支援内容などを発信していく。
2.利用者支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ会議にてケース検討を行いケースの情報共有、意見交換をしながら、支援を深めることが出来た。スタッフ会議の高い参加率も維持することが出来たことにより、支援の統一が進んだ。 ・受け入れ人数が増えたことで、それに応じた支援力も必要になってきたが、利用者の特性に応じた研修については実施できなかった。 ・短期入所利用者とその葉入居者の目的と意義の違いを職員が理解し、最終目標を意識しながら支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画が必要ない事業であるため、支援の目標を常に明確にし、更新していく。加えて職員に分かりやすく提示をしていく。 ・短期入所事業に必要な支援力を得るための研修計画を立てる。 ・今後の支援に繋げる為、一つ一つの支援について、目標達成までの支援の流れを振り返り、検証を行っていく。

3. 利用実績

① 利用者数 6名 (男性3名みらいユニット、女性3名あいユニット)

② 年齢別利用者数(令和8年3月31日現在) 平均34.6歳 (単位:人)

10代	20代	30代	40代	50代	合計
0	3	1	1	1	6

③ 利用者の障害支援区分(令和8年3月31日現在) 平均2.7 (単位:人)

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	2	1	2	1	0	6

④ 障害別利用日数/利用実績 (単位:日)

	精神障害	知的障害	合計
4月	0	30	30
5月	0	15	15
6月	0	24	24
7月	0	23	23
8月	0	19	19
9月	0	18	18
10月	0	25	25
11月	0	30	30
12月	0	30	30
1月	0	32	32
2月	0	28	28
3月	0	34	34
合計	0	308	308

4 居宅介護事業所ウイング

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

移動支援において、昨年度から 800 時間増と大きく数字を伸ばした。新しい媒体（ネット求人）でのガイドヘルパー募集に大きな反響があったことと、年 2 回開催している国分寺市移動連絡会によるガイドヘルパー養成講座受講生、計 8 名が新規ガイドヘルパーとして登録した。3 月に開催した養成講座からも 4 名のガイドヘルパー登録希望があり、今後面接を行い登録を進めていく。これまでヘルパー不足によって利用を断っていた利用者に対してもサービスを提供できるようになり、ニーズに応えることが出来た。居宅介護ヘルパーは今年度も新規登録はなかったが、これまでガイドヘルパーとして従事していた方 1 名が居宅介護の支援にも従事するようになった。同行援護と育児支援に関しては派遣時間数が減少した。同行援護は利用者の高齢化、育児支援は市が展開する新しい利用制度が上手く機能しなかった事による。

2)利用者支援

新規ガイドヘルパーの支援にはコーディネーターが同行。利用者、ヘルパー両方に不安の無いよう丁寧に引継ぎを行った。国分寺市移動支援連絡会によるグループ外出を月 1 回開催し、多くの利用者が参加され、グループでの余暇を楽しんだ。個別での外出、仲間との外出と余暇の楽しみ方の選択肢を広げることが出来た。居宅介護においては、相談支援専門員、ケアマネージャー、子ども家庭センターなど各関係機関と連携し、利用者の状況を共有して、安全で各々に適した支援ができるように努めた。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1. 運営体制の安定	今年度もコーディネーター 2 名体制で運営を行った。コーディネーター間での業務分担が効率的に行えていない部分があった。	移動支援の派遣時間数が大幅に増加したことで、コーディネイト業務、請求業務も大きく増えた。コーディネーターが担っている支援業務をヘルパーに分担し、事務作業の時間を確保する。
2. ヘルパー確保と定着	国分寺市移動支援連絡会ガイドヘルパー養成講座において、管理者、サービス提供責任者が講師を担い、ヘルパーの獲得に務めた。移動支援ヘルパーは新たな人材を確保することが出来た。一方で重度訪問介護、家事援助の依頼はあるが、居宅介護ヘルパーは増えていない状況。	居宅介護の場合、介護保険事業所の方がヘルパーの時給が高いことが、大きな壁となっている。
3. ヘルパーへの OJT	国分寺市移動連絡会で年に 2 回、ガイドヘルパー研修を行った。ウイングからは計 8 名のヘルパーが参加し、支援に対する知識を得ることが出来た。	ガイドヘルパーに対しては、移動支援連絡会の活動が活発でサポート面が整っているのに対し、居宅ヘルパーに対してのサポート体制が築けていないことが課題である。年度初めの早い段階でヘルパー会議の開催日を決定し、計画的に会議を開催したい。

3. 利用者の状況等

① 派遣状況

	派遣時間 (時間)	利用者 (人)	居宅	重訪	同行	移動		育児	エル
						知的	児童		
4月	626.25	67	28	5	9	24	0	0	1
5月	670.75	62	28	6	10	18	0	0	0
6月	642.50	67	29	5	8	24	0	0	1
7月	699.00	69	29	6	10	23	0	1	0
8月	691.00	66	30	5	8	23	0	0	0
9月	707.50	68	30	5	6	27	0	0	0
10月	726.00	69	31	5	7	26	0	0	0
11月	674.25	73	31	5	9	25	0	2	1
12月	671.00	73	31	5	9	26	0	0	2
1月	688.50	72	30	5	8	27	0	1	1
2月	633.75	72	29	5	8	27	0	3	0
3月	640.50	72	30	6	9	25	0	1	1
合計	8071	830	356	63	101	295	0	8	7

② サービス別派遣時間

	身体 介護	家事 援助	重度 訪問	同行 援護	知的 移動	児童 移動	育児 支援	エル	合計
4月	26.50	123.75	202.00	109.00	164.00	0.00	0.00	1.00	626.25
5月	27.50	114.75	209.50	137.00	182.00	0.00	0.00	0.00	670.75
6月	23.50	118.00	188.50	108.50	203.00	0.00	0.00	1.00	642.50
7月	25.00	122.00	223.50	129.50	198.00	0.00	1.00	0.00	699.00
8月	24.50	123.50	226.00	78.00	239.00	0.00	0.00	0.00	691.00
9月	27.50	135.50	226.50	62.50	255.50	0.00	0.00	0.00	707.50
10月	26.00	132.50	216.50	97.50	253.50	0.00	0.00	0.00	726.00
11月	21.00	119.75	189.00	83.50	257.00	0.00	2.00	2.00	674.25
12月	25.50	125.50	199.00	101.00	213.00	0.00	0.00	7.00	671.00
1月	26.00	105.50	214.00	90.50	250.50	0.00	1.00	1.00	688.50
2月	19.50	105.25	189.00	84.50	230.50	0.00	5.00	0.00	633.75
3月	24.00	126.00	225.50	54.50	204.50	0.00	4.00	2.00	640.50
合計	296.5	1452	2509	1136	2650.5	0.00	13	14	8071

③ 会議等の実施状況

- ・ 定例会議を毎月実施。(管理者、課長、サービス提供責任者)
- ・ 国分寺市移動連絡会による合同でのヘルパー会議を開催(年2回)
- ・ 3月、個人情報保護、身体拘束に関する研修を実施(レポート提出)

IV 基幹相談支援センター事業部門

2. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

今年度は新たに異動をしてきた職員1名を迎えたが、上半期に1名が退職し、上半期・下半期にそれぞれ休職があった。他事業の管理者や職員に協力を仰ぎつつ、新規採用活動にも取り組んだが奏功せず、11月に法人内での職員異動により体制を整え直した。そのような状況であったため、それぞれの担っている役割や業務の進捗について詳細に確認をし合い、委託業務においては全ての業務を確実に取り組むことができた。チーム作りという点においては、課題が多く表出した一年であり、心理的安全性のある職場作りが必須であると捉えている。

①相談支援専門員の数も少しずつではあるが増えてきており、新規で計画相談を希望する方の受入フローが定着化し、セルフプランから計画相談を希望する方への移行についての取組も開始された。国分寺市内の相談支援体制も徐々に整備されてきている。また、2事業所において協働型機能強化(※1)の取組が始まった。安定した運営に繋がるよう基幹もサポートに取り組んだ。相談支援体制の課題としては量と質の両面が必要と言われているが、質の向上に向けては市障害福祉課、主任相談支援専門員と連携をして、相談支援専門員のサポートやスキルアップの取組、相談支援事業所連絡会やブラッシュアップ研修、事例検討会等を実施した。

②市と協働のもと、自立支援協議会のテーマ「障害者支援施設や精神科病院等からの地域生活への移行の促進」に関する取組を実施した。障害者支援施設利用者に対して、地域生活への移行ニーズ調査が3月に実施されたが、実施に向けては他自治体の先行事例の視察や権利擁護のための意思決定支援の研修を開催し、調査内容について具体的な協議を重ねた。また、近隣市の精神科病院との連携を継続的に実施しており、今年度は地域資源の見学と病院の見学を実施し、医療と地域支援者の相互理解や連携強化に取り組んだ。

2) 利用者支援

今年度も多種多様で、複雑化・複合化したケースの相談が多く寄せられ、相談件数も増加している。基幹のみで対応できるケースは少なく、様々な分野の支援者や関係機関と連携・協働して支援に取り組んだ。そのような背景もあり、ネットワーク研修Ⅰにおいては精神科病院からの地域移行に向けた障害分野の支援者間連携について、ネットワーク研修Ⅱでは重層的支援体制事業の支援会議を取り上げ、分野を超えた多機関連携について学ぶ機会を設けた。個別のケース支援と併せて研修等の機会も活用し、横断的で一体的な相談支援体制構築や分野を超えたネットワーク形成に取り組んだ一年であった。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

1) 相談支援事業所訪問

(1)相談支援専門員との面談：全12事業所のうち11事業所と面談実施。1事業所は先方の都合により中止。各事業所の運営状況や新規計画相談ケースの受け入れの見込み、加算の取得状況等の聞き取りを行った。

(2)相談支援従事者研修の対応：主任相談支援専門員とともに従事者研修実習に対応した。相談支援現任研修では3名に、相談支援初任者研修では6名に対応した。初任者研修では、基幹より市内の相談支援体制についての説明も併せて実施した。

(3)相談支援体制検討プロジェクト：10月より2事業所で協働型機能強化(※1)の取組が開始された。開始にあたりサポートを実施し、会議に参加した。

2) コンサルテーションの実施

上半期より各事業所に働きかけを行うも、下半期よりコンサルテーションの相談が徐々に増え、10月以降で9ケースの実施となった。課題が複雑・多岐に渡るケースが増加しており、また個別ケースを通じた支援者間の意見交換等の場を希望する声もあった。コンサルテーションに限定しない実施方法について、次年度は検討したい。

3) 相談支援専門員研修

(1)新任研修：6月に実施。新たに始まる就労選択支援事業（※2）を中心に支給決定基準等について市より説明を受けた。

(2)ブラッシュアップ研修：障害福祉課と主任相談支援専門員と協議し、相談支援専門員の知識・技術を向上させるための内容と地域移行に関する内容を中心に6回実施。

(3)事例勉強会：1回は野中式（※3）による事例勉強会を実施。地域移行ケースを取り上げた。もう1回も地域移行に絡め、精神科病院と連携して実施。医療関係者が地域資源を学ぶツアーと地域の支援者による精神科病院の見学をセットで実施した。医療関係者と地域の支援者がお互いの取組を知る機会となり、連携がより深まる取組となった。

(4)その他：昨年度に引き続き、相談支援専門員グループワークを実施。今年度は「国分寺市の地域課題の抽出」をテーマに意見交換を行い、出された意見は相談支援部会に報告を行った。

4) 支援者向け虐待防止研修

市内の福祉関係者に向けて12月に会場とオンラインでのハイブリッド形式で実施。昨年度に続き、強度行動障害の理解や適切な支援を通じて、虐待防止につなげる内容で実施した。今年度はより現場で活かせるように、具体的な事例等も講師に挙げていただいた。

5) 地域ネットワークの構築・拡大

(1)ネットワーク研修Ⅰ（地域移行）：7月に実施。精神科病院から地域移行した好事例を取り上げ、支援者間の連携も学ぶ機会とした。地域移行した当事者のインタビューも音声で紹介した。

(2)ネットワーク研修Ⅱ（高齢分野－障害分野）：11月に実施。複雑化・複合化した高齢の親と障害のある子どもの世帯への支援を取り上げ、重層的支援体制事業による支援会議の流れに沿って、多機関連携による支援について学んだ。

(3)ネットワーク研修Ⅲ（障害児）：令和8年2月に実施。精神障害好発期の思春期・青年期のこころのケアを中心に、若者支援のポイントや具体的な関わり方、家族支援の視点等について学んだ。

(4)その他

- ・包括6事業所への訪問。高齢分野との連携や8050世帯への支援について意見交換をした。
- ・新任ケアマネ研修に講師依頼を受けて対応。その他に、他自治体からの基幹視察や基幹設置に向けた勉強会の講師依頼に対応した。

6) 自立支援協議会マネジメント業務

自立支援協議会全体会、各部会、各連絡会において、市と基幹が事務局として連携して実施。

(1)自立支援協議会全体会：年3回実施。「障害者支援施設や精神科病院等から地域生活への移行の促進を図る」をテーマとして協議が行われた。8月には地域移行ニーズ調査実施の先行事例の視察、協議会での報告等を実施。全体会実施前には会長との打合せや事務局会議を実施。会議記録は基幹で全文記録を作成。

(2)相談支援部会：年3回実施。施設入所者の地域移行についての協議、意思決定支援、地域の受け皿の整備等について協議した。意思決定支援については、理解を深め協議の土台を作るため、9月に「意思決定支援研修」を実施した。

(3)就労支援部会：年3回実施。お仕事ネットワークによる工賃アップに向けての課題と取組の協議、職場実習の内容検討のためのアンケートを実施した。また、昨年度より開始された就労選択支援事業についても共有が成され、課題解消に向けた協議をした。

(4)精神保健福祉部会：年3回実施。精神科病院との連携、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステ

ム」構築の検討、当事者ヒアリング等について実施した。普及啓発活動では、つばさ市民福祉講座とタイアップして当事者の語りと市内の状況報告をした。

(5)相談支援事業所連絡会：年 12 回実施。情報共有や専門員のスキルアップを目的として、ブラッシュアップ研修や事例勉強会の実施とともに、部会に紐づいた課題の協議をした。今年度は特に、地域移行ニーズ調査に向けた意見交換やセルフプランから計画移行への新たな取組が協議され開始された。

(6)障害児通所支援事業所連絡会：年 2 回実施。各事業所の取組を共有し、市からの加算の説明、保護者との連携やセルフプランから計画相談への移行等について意見交換を行った。

(7)地域移行等支援連絡会：年 11 回実施。精神科病院入院中の方のケース共有、精神科病院との連携に取り組み、精神科病院との共同で地域資源ツアー/精神科病院見学を実施し、地域移行への促進の取組を実施した。また、思春期・青年期の支援者との連携を図り、スクールソーシャルワーカーとの意見交換会を実施した。

(8)ニューズレターの制作・発行・配布：年 2 回、第 17 号と第 18 号を発行。第 17 号では自立訓練事業を特集。第 18 号では表紙に市内で新たに開設した就労継続 A 型事業を特集した。

7) 市との定例協議、その他連絡会等

(1)毎月、定例協議を実施し業務の進捗状況を確認した。その他にも、随時、必要に応じて連絡を取りあい、必要な協議を行った。

(2)高齢者/障害者実務従事者虐待防止ネットワーク、地域ケア会議権利擁護部会、消費者見守りネットワーク協議会、権利擁護地域連携ネットワーク会議には、センター長が委員として参加した。

(3)権利擁護関係機関連絡会、発達障害者支援関係機関情報交換会、高次脳機能障害関係機関連絡会には、センター長と職員が参加した。

(4)基幹相談支援センター連絡会には、センター長が参加した。

(5)医療的ケア児支援関係者会議と事務局会議に、センター長が副会長として参加した。

8) 緊急度の高いケースの情報把握と緊急入所保護事業

(1)市からの依頼や相談支援専門員の要望により、利用者宅への訪問や説明に同行することとなっている。今年度は 3 月に 1 件実施した。

(2)令和 6 年度以降、登録者の現状把握および新たに緊急度の高いケースの対応が実施できていない。令和 8 年度の実施に向けて市と取組方法を確認した。

9) 地域生活支援拠点としての役割

拠点事業のミドルステイ事業について、利用の促進のための協議を地域移行等支援連絡会で実施。継続課題となっている。

3. 人材育成

1) 業務の確認

(1)年度開始の段階で、基幹の業務や役割、職員個々の役割分担や業務の割り振りを確認した。しかし、職員欠員等の関係で、役割の変更や業務の引継ぎ等、想定外の対応も多くあった。その都度、確認しながら対応をしたが、職員個々の負担は大きい状況となってしまった。

(2)「2024 アニュアル レポート」を 7 月に発行。今年度は業務効率や経費削減を考慮し、ページ数を削減した構成に変更した。

2) 職員研修・OJT

(1)下半期に、人事考課試行に併せてセンター長と職員の面談を実施した。一年を通しての事業としての進捗や各職員個々の業務や役割等を振り返った。

(2)多摩精神保健福祉センターや中部総合精神保健福祉センター開催の精神保健福祉研修を中心に、年間で 9 研修に参加をした。職員の欠員の関係で研修への参加も難しく、例年に比べて参加数が減っている。また、医療的ケア児等コーディネーター養成研修にも職員を派遣する予定でいたが、同様の理由で参加できなかった。

(3)職員一名が相談支援従事者初任者研修を受講した。

4. 活動実績

(1)令和7年度 相談業務実績 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)

相談支援件数	4,534 件
--------	---------

(2)個別ケースに関わる相談業務

①支援方法別件数

	訪 問	来所相談	同 行	電話等 相談	電子 メール	個別支援 会議	その他	計
件数	225	94	7	1,715	286	18	116	2,461

②支援内容の内訳

	福祉サー ビスの利用等 に関する 支援	障害や症状 の理解に関 する支援	健康・医療 に関する 支援	不安の解消 ・情緒安定 に関する 支援	保育・教育 に関する 支援	家族関係・ 人間関係に 関する支援	家計・経済 に関する 支援	生活技術に 関する支援
件数	1,556	1,773	1,071	987	85	833	336	873
	就労に関 する支援	社会参加・ 余暇活動に 関する支援	権利擁護に 関する支援	虐待防止に 関する支援	地域移行・ 地域定着に 関する支援	その他(介 護保険・ 8050 問題)	その他	計
件数	190	180	7	11	259	416	241	8,818

(3)地域のネットワーク体制の構築及び研修等に関わる業務

①支援方法別件数

	訪 問	来所相談	電話等相談	電子メール	その他	計
件数	196	76	738	996	67	2,073

(4)地域の相談支援事業者の研修等

日 時	テーマ及び内容	対象	備考
5 月 15 日	<p>【ブラッシュアップ研修】</p> <p>①テーマ：国分寺市社会福祉協議会の事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国分寺市社会福祉協議会について ・自立生活サポートセンターこくぶんじの事業について ・権利擁護センターこくぶんじの事業について ・地域福祉コーディネーターの業務について ・重層的支援会議及び支援会議の活用方法等について <p>講師：国分寺市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター 野村 拓夢氏、稲葉 圭亮氏 権利擁護センターこくぶんじ 岡倉 美涼氏、駒井 麻樹氏 自立生活サポートセンターこくぶんじ 泉 有紀氏、佐藤 七海氏</p> <p>②テーマ：東京都産業労働局 東京障害者職業能力開発校について</p> <p>講師：能開課能力開発担当 広報業務支援員 石塚 信雄氏 会場：cocobunji プラザ セミナーホール</p>	・相談支援事業所	参加者 16名
6 月 18 日	<p>【新任研修】</p> <p>テーマ：「就労選択支援」および「支給決定基準」について</p> <p>講師：障害福祉課事業推進係 係長 千田 孝一氏 会場：cocobunji プラザ セミナーホール</p>	・相談支援事業所	参加者 16名

7 月 16 日	<p>【ブラッシュアップ研修】 テーマ： こども家庭センターの概要とヤングケアラー支援及び要保護児童対策/地域協議会の仕組みについて 講師： 子ども家庭部子育て相談室連携推進担当係長 小林 亜紀氏 子ども家庭部子育て相談室相談支援係虐待対策支援ワーカー 谷口 由美氏 子ども家庭部子育て相談室相談支援係 ヤングケアラーコーディネーター 久保 恵美子氏 会場：cocobunji プラザ セミナーホール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所 	参加者 16名
7 月 29 日	<p>【ネットワーク研修Ⅰ（地域移行）】 テーマ：地域移行支援 in 国分寺 ～好事例から学ぶ多職種連携～ 講師：地域生活支援センタープラッツ 毛塚 和英氏 特定医療法人社団薫風会 地域活動支援センターハーモニー 副施設長 大橋 美音氏 社会福祉法人はらからの家福祉会 ピア国分寺 世話人 尹 聖根氏 株式会社円グループ 訪問看護ステーション進 看護師・保健師 石堂 紘代氏 会場：リオンホール AB</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所 ・地域活動支援センター ・精神科病院 ・訪問看護ステーション ・障害福祉サービス事業所 ・社会福祉協議会 ・行政機関 ・その他 	参加者 37名
9 月 18 日	<p>【ブラッシュアップ研修】 テーマ：国分寺市医療的ケア児支援関係者会議の取組報告について 講師：障害福祉課相談支援係 係長 齊藤 俊介氏 会場：市役所会議室 401</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所 	参加者 16名
10 月 15 日	<p>【相談支援専門員グループワーク】 テーマ：国分寺市内の地域課題の抽出について ～個人のニーズは地域のニーズ～ 事前説明：地域活動支援センターつばさ 副主任 小杉 理氏 （主任相談支援専門員） 会場：市役所会議室 401</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所 	参加者 18名
11 月 18 日	<p>【ネットワーク研修Ⅱ（高齢福祉－障害福祉）】 テーマ：つながる支援、広がる視点 ～他分野・多職種との協働を学ぶ～ 講師：パネルディスカッション 地域活動支援センターつばさ（相談支援事業所） 地域包括支援センターこいがくぼ（地域包括支援センター） 地域福祉コーディネーター、自立生活サポートセンター こくぶんじ、権利擁護センターこくぶんじ （国分寺市社会福祉協議会） 国分寺市健康部地域共生推進課（重層的支援体制整備担当） 国分寺市福祉部障害福祉課（相談支援係） 会場：リオンホール AB</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所 ・障害福祉サービス事業所 ・地域包括支援センター ・居宅介護事業所 ・社会福祉協議会 ・東京都自立支援協議会委員 ・他市基幹相談支援センター ・行政 	参加者 29名

11 月 20 日	<p>【ブラッシュアップ研修】</p> <p>テーマ：「出る」支援から、「暮らしをつくる」支援へ ～国分寺市における、これからの地域移行について～</p> <p>講師：地域生活支援センタープラッツ 毛塚 和英氏 (主任相談支援専門員)</p> <p>会場：市役所会議室 201</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所 	参加者 16名
12 月 10 日	<p>【支援者向け虐待防止研修】</p> <p>テーマ：強度行動障害の状態にある方への支援 ～事例から学ぶ関わり方のヒント～</p> <p>講師：社会福祉法人嬉泉 大田区立こども発達センターわかばの家 施設長 沼倉 実氏</p> <p>会場：リオンホール AB+オンライン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所 ・障害福祉サービス事業所 ・居宅介護事業 ・障害児通所事業所 ・地域包括支援センター ・特別支援学校 ・保育園 ・児童館 ・学童保育所 ・行政 ・その他 	参加者 152名
12 月 19 日	<p>【事例勉強会】</p> <p>テーマ：野中式事例検討について ①野中式の説明 ②事例検討</p> <p>ファシリテーター/板書： 地域生活支援センタープラッツ 毛塚 和英氏 (主任相談支援専門員)</p> <p>地域活動支援センターつばさ 小杉 理氏 (主任相談支援専門員)</p> <p>事例提供：ラミュール相談支援事業所 熊谷 陽氏 障害福祉課相談支援係 係長 齊藤 俊介氏 国分寺市障害者基幹相談支援センター センター長 尾田 史剛</p> <p>会場：市役所会議室 401</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所 	参加者 15名
1 月 14 日	<p>【ブラッシュアップ研修】</p> <p>テーマ：成年後見制度の活用</p> <p>講師：特定非営利活動法人成年後見ウィル 理事長 阿部 由美氏</p> <p>会場：市役所会議室 201</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所 ・他市基幹相談支援センター 	参加者 18名
1 月	<p>【事例勉強会】 1月21日、29日の2回実施</p> <p>テーマ：根岸病院職員対象の地域資源ツアー</p> <p>訪問先：相談支援事業所、地域活動支援センター、 共同生活援助事業、短期入所事業、就労支援事業、 就労継続B型事業、自立訓練事業、こども家庭センター、 社会福祉協議会、市役所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所 ・根岸病院職員 ・行政 	参加者 21日 12名 29日 16名
2 月 18 日	<p>【ネットワーク研修Ⅲ（障害児）】</p> <p>テーマ：思春期・青年期のこころのケア ～メンタルの不調はだれにでも起こること～</p> <p>講師：NPO 法人東京フレンズ 理事長、 日本社会事業大学 非常勤講師 西隈 亜紀氏</p> <p>会場：リオンホール AB</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所 ・障害児通所事業所 ・障害福祉サービス事業所 ・保育園 ・学童 ・児童養護施設 ・行政 	参加者 32名

2 月 19 日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：緊急入所保護事業の考え方と利用の流れについて 講師：障害福祉課相談支援係 係長 齊藤 俊介氏 会場：市役所会議室 401	・相談支援事業所	参加者 14名
2 月 25 日	【事例勉強会】 テーマ：根岸病院見学会 会場：根岸病院	・相談支援事業所 ・行政	参加者 11名

(6) 権利擁護等に関わる研修及び会議への出席

月	日	研修名	主催	参加人数
5	23	権利擁護関係機関連絡会	社会福祉法人国分寺市社会福祉協議会 権利擁護センターこくぶんじ	2名
6	4	国分寺市障害者虐待防止ネットワーク実務者会議	国分寺市 障害福祉課	1名
6	4	国分寺市高齢者虐待防止ネットワーク実務者会議	国分寺市 高齢福祉課	1名
6	19	国分寺市地域ケア会議 権利擁護部会	国分寺市 高齢福祉課	1名
6	19	国分寺市消費者見守りネットワーク協議会	国分寺市 経済課	1名
7	17	権利擁護地域連携ネットワーク会議	社会福祉法人国分寺市社会福祉協議会 権利擁護センターこくぶんじ	1名
9	1	権利擁護のための意思決定支援	国分寺市障害者地域自立支援協議会相談支援部会	3名
9	3	国分寺市消費者見守りネットワーク協議会	国分寺市 経済課	1名
1	15	国分寺市地域ケア会議 権利擁護部会	国分寺市 高齢福祉課	1名
1	15	国分寺市消費者見守りネットワーク協議会	国分寺市 経済課	1名
1	22	権利擁護地域連携ネットワーク会議	社会福祉法人国分寺市社会福祉協議会 権利擁護センターこくぶんじ	1名
1	16	意思決定支援の基本的な考え方と支援者に求められる大切なこと	東京都福祉局東京都立多摩総合精神保健福祉センター	1名

※1 協働型機能強化

相談支援事業所の基本的な報酬体系には、機能強化Ⅰ～Ⅳと機能強化なしの5段階があり、機能強化型Ⅰが最も高い報酬を算定できる。それぞれに算定要件があるが、特に常勤・専従の相談支援専門員の配置人数により算定できる報酬が異なる。協働型機能強化相談支援体制とは、単独の事業所では複数の相談支援専門員を配置することができない事業所が、複数の事業所と共同体を組織することで、複数の相談支援専門員を配置しているとみなすことができ、より高い報酬を得ることができる仕組みのこと。

※2 就労選択支援事業

令和7年10月より新たな障害福祉サービスとして実施される事業。障害者本人が就労先・働き方についてより良い選択ができるよう、就労アセスメントの手法を活用して、本人の希望、就労能力や適性等に合った選択を支援するもの。対象者は、就労移行支援または就労継続支援を利用する意向を有する者および現に就労移行支援または就労継続支援を利用している方となる。

※3 野中式

故・野中猛氏が考案し、実践されている事例検討方法。支援対象者の「現状」「背景」「目的」を掘り下げ、具体的な質問を重ねることで、支援の質を向上させ、支援者のアセスメント力を高めることを目指している。

V 法人全体の取組

1. 職員研修

虐待防止、身体拘束に関わること、感染症、BCPに関することと悉皆研修として求められているテーマについては、講師を招いての講義形式での研修、サポーターズカレッジを視聴する等の方法により実施した。令和8年度からは、サポーターズカレッジを活用しての悉皆研修は、職員会議の時間に視聴し、できる限り多くの職員が参加できるよう整えていきたい。また、全員参加による虐待防止研修、理念研修の実施後は、各事業において自分達の取組、支援上意識すること等を話し合い、日々の支援に繋がるよう取り組んでいる。令和8年度も引き続き、同様の取組を継続する。また、外部研修に積極的に参加することを継続しつつ、各事業においては支援において苦慮していること、新たな視点を受けて支援に活かしたいこと等、外部の講師を招き研修を実施した。外部講師からの視点は、これまでの取組を振り返る機会となり、課題点等を示されることもあるが、悩みながらも努力していることについて、受け止めてくださる言葉やアドバイスをいただくことで、職員一人ひとりが前向きになれる機会でもあった。今後も外部講師を招き、学びを深める機会を継続していきたい。

2. 利用者の声を聴く取組

指定管理事業として運営しているセンターでは、通所事業において「第三者評価」その他の事業については「利用者アンケート」を実施した。また、KOCO・ジャムでは、ケアホームひかりにて第三者評価を実施した。今回の第三者評価では、「満足度」について、「現在利用している事業所を総合的にみて、どの程度満足していますか」という問いを設定し回答いただいた。また、第三者評価における対面での利用者聴き取りに際し、絵カードや〇×カードを活用し利用者の回答ツールについても工夫を行い、回答の有効性が挙げられるよう取組んだ。

昨年度聴き取り結果との比較を行い、「はい」の回答割合が高くなった問上位3つを紹介する。「はい」の回答割合が下がった問については、現場責任者と何が要因となっているか意見交換を行い、具体的な取組を次年度実施するよう取り組んだ。

- ① 自立訓練事業で「あなたにとって、事業所での活動は、生活する力をつけることに役に立っていると思いますか」の問い前年度より24.2%増。
- ② 全事業共通「あなたは、職員があなたの気持ちを大切にしながら対応してくれると思いますか」の問い前年度より6.9%増。
- ③ 全事業共通「あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか」の問い前年度より3.9%増

		回答者数		大変満足 (はい)		満足 (どちらかといえばはい)		満足計	
		人	%	人	%	人	%	人	
第三者評価	生活介護	37	36.7	約 22	38.3	約 23	75	45	
	自立訓練	11							
	就労継続B型	12							
	ケアホームひかり	7	42.9	3	42.9	3	85.8	6	
利用者アンケート	日中一時支援	24	66.7	16	29.2	7	95.9	23	
	短期入所	29	58.6	17	37.9	11	96.5	28	
	計画相談	128	67.2	86	24.2	31	91.4	117	
	地域活動支援センター	21	61.9	13	23.8	5	85.7	18	
計		269	55.7	157	32.7	80	88.4	237	

3. 広報活動・地域交流

法人広報誌「ことのは」、各事業にて発行している通信を定期的に発行した。「ことのは」の発行当初は、法人外に向けた意識が強かったが、今年度は身近な利用者やご家族等に親しみをもって読んでいただけるよう、身近な題材を発信するよう努めた。併せて、事業を紹介する「万葉コレクション」では、力を入れていることをテーマにして発信した。今回意識して取り組んだことを継続しつつ、読み手の方々より感想をいただきながら、更なる広報誌の充実を図っていきたい。また、Instagramについては、範囲を限定しての発信を継続したが、次年度はSNSのメリットであるタイムリーかつ効率的に情報を発信・拡散できる力を活かし、発信する情報の幅を広げられるよう取り組んでいきたい。

①定期刊行物 「広報万葉の里」の発行

NO	発行時期	主な内容
No79	2025年10月 秋号	「特集 ロの中から保つ健康～万葉の里の取組～」 万葉コレクション（事業紹介）「地域活動支援センターつばさ」 Lets「特定非営利活動法人 ひょうたん島」 ういず「職員リレー紹介」・いやしけよごと・編集後記
No80	2026年4月 春号	「特集 ホットな給食 ほっとする給食～国分寺市障害者センターの温かい食事～」 万葉コレクション（事業紹介）「生活介護事業 太陽」 Lets「音訳グループやまばと」 ういず「職員リレー紹介」・いやしけよごと・編集後記

②各事業で企画や予定をお知らせするため定期的に便りを発行した。

名称	発行回数	配布先
太陽だより	月1回12回発行	生活介護事業太陽利用者/利用者ご家族
つばさだより	月1回12回発行	地域活動支援センター利用者/HP掲載/Instagram掲載
この里だより	月1回12回発行	生活介護事業この里利用者/利用者ご家族/HP掲載

4 会議の開催

(1) 内部会議 下表のとおり、それぞれの役割・職域に応じた会議を開催した。また、各事業のスタッフ会議を定期的実施した。

会議名	開催日時	参加者	議案・内容
経営会議	毎月第4木曜日12回開催	理事長・副理事長・常務理事 各部門長・センター長・ 各課長	各拠点からの報告、予算執行状況について情報を共有した。また、改善を要する案件については、意見交換を行い、改善策が見出させるよう取り組んだ。
部門会議	毎月1木曜日 3水曜日 24回開催	各部門長・センター長	キャリアパス制度、実践研究・実践報告、法人内人材交流等、法人全体に関わる内容について協議した。
課長会議	毎月第2,4金曜日24回開催 (国分寺市障害者センター) 毎月2木曜日12回開催 (KOCO・ジャム)	各課長	各課に共通する案件、利用者支援、運営上の課題等について、検討を行うと共に情報共有を行った。
職員会議	毎月4水曜日12回開催	法人職員全員	法人の事業について報告し、情報共有する場として実施した。
衛生委員会	毎月第3金曜日12回開催	産業医・統轄衛生管理者・ 衛生管理者・職員の代表1名	産業医の意見を受けながらの現状の職場環境を加味し、協議事項を計画通り実施した。今年度はハラスメント、ストレスチェック集団分析結果などについて新たに協議を行った。
虐待防止委員会	毎月第1木曜日12回開催	各部門長・センター長	職員への啓発活動として実施する虐待防止研修の内容について協議した。

身体拘束 検討委員会	3ヶ月毎	各課長・看護主任 主任（必要に応じて）	身体拘束に関わること、職員への啓 発活動について協議した。
給食会議	毎月第2金曜日 12回開催	支援1,2課長・主任看護師・ 給食業者・各事業担当・ 総務課担当者	給食について情報共有、検討を要す る事柄について検討を行った。
広報委員会	毎月第4水曜 12回開催	総務課担当者・各部門担当者	年2回発行する広報誌について、掲 載する原稿、写真と時間をかけ精査 し発信したい内容が利用者、関係団 体の方に届くよう取り組んだ。
送迎会議	毎月第2火曜日 12回開催	送迎担当・送迎事業者	送迎について情報共有を行い、課題 を共有、検討を行った。
BCP策定 検討委員会	不定期（KOCO・ジャム、国分寺 市障害者センター2拠点に分 かれ開催）	各部門長・センター長・総務 課担当者・支援4課長・ ケアホーム主任・短期入所課 長補佐・看護主任	現行のBCP計画を活用しながら、現況 に併せての改訂作業を行った。初動 における備品整備などについて検討 を行った。

(2)関係機関との連絡会

・国分寺市との打合せ

大規模改修時の事業運営、工事による影響等について担当所管である障害福祉課と共通認識がもてるよう定期的に打合せを行った。その他、事業を継続するにあたって、東京都や保健所への相談、申請に関することや利用者・家族・近隣の方への説明会実施について等検討した。

・国分寺障害者団体連絡協議会との打合せ

「笑いと歌の会」「バスハイク」「運動会」等担当者を配置し、企画運営にかかる会議に参加した。それぞれ求められた役割を担い、各法人関係者と協力し企画実施に向けて取り組んだ。「笑いと歌の会」では、販売企画で市内法人が協同でお菓子の福袋などを準備から協力し行ったことは、今後の連携をより密にするための新たな企画として成果のあるものだと感じた。引き続き、「連携」を意識した取組となるよう努めたい。

5. ボランティア・実習生の受け入れ

生活介護事業太陽・この里では、共にボランティアの方を講師として余暇活動に取り組んだ。また、私立中学校、私立大学、国家資格、ボランティアセンターより17名受け入れた。近隣からも1名受け入れヘルパー登録に繋がった。就労継続支援B型ピーむを含め、特別支援学校・関係団体からの実習も積極的に受け入れを行った。

6. 安全管理・防災訓練

国分寺市障害者センター、KOCO・ジャムと以下の内容にて、それぞれ訓練を実施した。

【国分寺市障害者センター】

	第1回	第2回
日時	令和7年9月25日 10～11時（火災想定）	令和8年3月5日 10～11時（火災想定）
参加者	利用者・職員 83人	利用者・職員 73人

【KOCO・ジャム】

	第1回	第2回	ケアホームこの葉	ケアホームひかり
日時	（動画「ネットで自衛消防訓練」東京都消防庁視聴）	令和7年10月23日 14時30分～ 14時50分 （地震想定）	令和7年10月20日 19時10分～ 19時25分 （地震想定）	令和8年3月12日 18時～18時30分 （地震想定）
参加者	職員 18名	利用者 19名 職員 7名	利用者 15名 職員 6名	利用者 12名 職員 4名

VI 理事会・評議員会

I 理事会

	日時	主な議案・報告
第1回	令和7年6月5日	<p>(議案)</p> <p>定款細則の改訂について 令和6年度事業報告の承認について 令和6年度計算書類及び財産目録の承認について 令和7年度評議員選任・解任委員会の招集について 令和7年度定時評議員会の招集について 第13期理事・監事候補者について 第11期評議員候補者について 第3期評議員選任・解任委員候補者について</p> <p>(報告)</p> <p>執行理事報告について</p>
第2回	令和7年6月26日	<p>(議案)</p> <p>理事長の選任について 副理事長の選任について 業務執行理事の選任について</p> <p>(報告)</p> <p>今後の予定</p>
第3回	令和7年11月27日	<p>(議案)</p> <p>社会福祉法人万葉の里 給与規程の一部改訂について 社会福祉法人万葉の里 育児休業及び育児短時間勤務等に関する規則の一部改訂について 社会福祉法人万葉の里 介護休業等に関する規則の一部改訂について</p> <p>令和7年度補正予算(案)について</p> <p>(報告)</p> <p>令和7年度上半期事業報告について 執行理事報告について</p>
第4回	令和8年1月29日	<p>(議案)</p> <p>評議員候補者について 国分寺市障害者センター管理業務委託契約について</p> <p>(報告)</p> <p>国分寺市障害者センター大規模改修工事について</p>
第5回	令和8年3月26日	<p>(議案)</p> <p>社会福祉法人万葉の里 令和7年度補正予算(案)について 社会福祉法人万葉の里 令和8年度事業計画(案)について 社会福祉法人万葉の里 令和8年度予算(案)について 令和8年度役員賠償責任保険の加入について</p> <p>(報告)</p> <p>今後の予定</p>

2 評議員会

	日時	主な議案・報告
第1回	令和7年6月26日	(議案) 令和6年度計算書類及び財産目録の承認について 第13期理事・監事候補者について (報告) 令和6年度事業報告の承認について

3 評議員選任・解任委員会

	日時	主な議案・報告
第1回	令和7年6月12日	第11期評議員の選任について(補選)
第2回	令和8年2月5日	第11期評議員候補者について(補選)

令和7年度 国分寺市障害者センター 利用状況一覧

月	生活介護事業 太陽(定員:1日当り38人)					自立訓練・機能訓練 機能訓練はばたき(定員:1日当り6人)					自立訓練・生活訓練 生活訓練はばたき(定員:1日当り6人)					就労継続支援B型 ピー心(定員1日当り10人)					合計		
	契約 人数	開所 日数	延利用 日数	平均 利用者 数	平均 利用者 数	契約 人数	開所 日数	延利用 日数	平均 利用者 数	平均 利用者 数	契約 人数	開所 日数	延利用 日数	平均 利用者 数	平均 利用者 数	契約 人数	開所 日数	延利用 日数	平均 利用者 数	契約 人数	延利用 日数	平均 利用者 数	
令和7年4月	48	21	776	37.0	3.8	4	4	15	3.8	7	18	76	4.2	6.1	13	24	147	6.1	72	1,014	51.0		
令和7年5月	48	20	735	36.8	5.0	5	3	15	5.0	7	17	58	3.4	6.0	13	21	125	6.0	73	933	51.1		
令和7年6月	48	21	750	35.7	4.3	5	4	17	4.3	7	17	64	3.8	6.0	13	23	139	6.0	73	970	49.8		
令和7年7月	48	22	770	35.0	4.8	5	5	24	4.8	7	17	64	3.8	5.9	14	23	136	5.9	74	994	49.5		
令和7年8月	48	20	707	35.4	4.8	5	4	19	4.8	8	16	59	3.7	6.0	13	22	133	6.0	74	918	49.8		
令和7年9月	47	20	683	34.2	5.0	5	4	20	5.0	8	17	68	4.0	7.3	13	20	145	7.3	73	916	50.4		
令和7年10月	47	23	800	34.8	4.3	5	4	17	4.3	8	19	80	4.2	6.2	14	25	155	6.2	74	1,052	49.4		
令和7年11月	47	18	613	34.1	5.0	5	4	20	5.0	9	14	70	5.0	6.3	14	22	138	6.3	75	841	50.3		
令和7年12月	47	20	698	34.9	4.6	5	5	23	4.6	9	16	78	4.9	7.0	14	22	154	7.0	75	953	51.4		
令和8年1月	47	19	655	34.5	4.0	5	4	16	4.0	9	15	75	5.0	6.7	14	22	148	6.7	75	894	50.2		
令和8年2月	47	18	581	32.3	4.0	3	4	16	4.0	9	14	71	5.1	6.3	14	20	125	6.3	73	793	47.6		
令和8年3月	46	21	696	33.1	2.0	2	5	10	2.0	9	16	79	4.9	6.5	14	22	142	6.5	71	927	46.5		
合計	568	243	8,464	417.5	51.4	54	50	212	51.4	97	196	842	51.9	76.2	163	266	1,637	76.2	882	11,205	597.1		
平均	47.3	20.3	705.3	34.8	4.2	4.5	4.2	17.7	4.2	8.1	16.3	70.2	4.3	6.4	13.6	22.2	140.6	6.4	73.5	933.8	49.8		
令和年度合計	566	244	8,795	432.5	32.2	36	51	136	32.2	85	196	679	41.7	80.7	173	294	1,978	80.7	860	11,588	587.0		
令和年度平均	47.2	20.3	732.9	36.0	2.7	3	4.3	11.3	2.7	7.1	16.3	56.6	3.5	6.8	14.4	24.5	164.8	6.8	71.7	965.7	48.9		

月	短期入所					日中一時支援					相談支援事業				
	開所 日数	延利用 日数	1日 平均	延利用 日数	時間 合計	1日 平均	延利用 日数	1日 平均	時間 合計	相談			1日 平均	延利用 日数	時間 合計
										開所 日数	件数	新規 (再掲)			
令和7年4月	30	37	1.2	54	229	1.8	229	27	1106	13	4036	105	105	105	105
令和7年5月	31	39	1.3	54	211	1.7	211	26	990	14	38.1	113	113	113	113
令和7年6月	30	39	1.3	52	203	1.7	203	27	1127	12	41.7	87	87	87	87
令和7年7月	31	51	1.6	68	270	2.2	270	28	1246	10	44.5	77	77	77	77
令和7年8月	31	43	1.4	66	289	2.1	289	27	1157	12	42.9	72	72	72	72
令和7年9月	30	39	1.3	63	291	2.1	291	26	1160	8	44.6	68	68	68	68
令和7年10月	31	44	1.4	67	286	2.2	286	28	1333	15	47.6	76	76	76	76
令和7年11月	30	39	1.3	75	314	2.5	314	24	1097	8	45.7	72	72	72	72
令和7年12月	31	43	1.4	71	292	2.3	292	26	1269	6	48.8	86	86	86	86
令和8年1月	31	38	1.2	66	257	2.1	257	25	1313	8	52.5	61	61	61	61
令和8年2月	28	44	1.6	64	249	2.3	249	24	1249	9	52.0	84	84	84	84
令和8年3月	31	45	1.5	68	278	2.2	278	27	1319	13	48.9	82	82	82	82
合計	365	501	16.5	768	3169	25.3	3169	315	14366	128	548.3	963	963	963	963
平均	30.4	41.8	1.4	64.0	264.1	2.1	264.1	26.3	1197	10.7	45.7	82	82	82	82
令和年度合計	366	365	12.0	538	2281	17.6	2281	317	10371	83	391.2	863	863	863	863
令和年度平均	30.5	30.4	1.0	44.8	190.1	1.5	190.1	26.4	864	6.9	32.6	72	72	72	72

令和7年度KOCO・ジャム 利用状況一覧

月	短期入所			基幹相談支援事業				生活介護事業				居宅介護事業				ケアホームひかり				ケアホームこの葉						
	開所 日数	延利用 日数	1日 平均	開所 日数	件数	新規	1日平均	開所 日数	契約 人数	延利用 日数	1日 平均	派遣 時間	利用 者数	稼働 ヘルパー	開所 日数	契約 人数	延利用 人数	1日 平均	開所 日数	契約 人数	延利用 人数	1日 平均	開所 日数	契約 人数	延利用 人数	1日 平均
令和7年4月	30	18	0.6	25	436	15	17.4	19	21	376	17.9	626.25	67	20	30	12	341	11.4	30	15	365	12.2	30	15	365	12.2
令和7年5月	31	9	0.3	24	350	9	14.6	19	20	359	18.0	670.75	62	23	31	12	330	10.6	31	15	369	11.9	31	15	369	11.9
令和7年6月	30	3	0.1	25	411	16	16.4	19	21	372	17.7	642.50	67	24	30	11	304	10.1	30	15	372	12.4	30	15	372	12.4
令和7年7月	31	14	0.5	26	396	16	15.2	19	22	391	17.8	699.00	69	26	31	11	306	9.9	31	15	384	12.4	31	15	384	12.4
令和7年8月	31	12	0.4	25	325	9	13.0	19	20	340	17.0	691.00	66	21	31	11	289	9.3	31	15	342	11.0	31	15	342	11.0
令和7年9月	30	11	0.4	24	390	14	16.3	19	20	359	18.0	707.50	68	25	30	11	300	10.0	30	15	370	12.3	30	15	370	12.3
令和7年10月	31	14	0.5	26	426	18	16.4	19	23	423	18.4	726.00	69	22	31	12	334	10.8	31	15	387	12.5	31	15	387	12.5
令和7年11月	30	18	0.6	23	297	9	12.9	19	20	333	16.7	674.25	73	22	30	12	321	10.7	30	15	370	12.3	30	15	370	12.3
令和7年12月	31	17	0.5	24	393	16	16.4	19	21	374	17.8	671.00	73	20	31	12	312	10.1	31	15	380	12.3	31	15	380	12.3
令和8年1月	31	20	0.6	23	378	15	16.4	19	20	340	17.0	688.50	72	23	31	12	308	9.9	31	15	336	10.8	31	15	336	10.8
令和8年2月	28	17	0.6	22	396	18	18.0	19	18	273	15.2	633.75	72	19	28	12	289	10.3	28	15	312	11.1	28	15	312	11.1
令和8年3月	31	20	0.6	25	336	20	13.4	18	22	379	17.2	640.50	72	20	31	12	337	10.9	31	15	382	12.3	31	15	382	12.3
合計	365	173	5.7	292	4534	175	186.5	227	248	4319	208.5	8,071	830	265	365	140	3771	124.0	365	180	4369	143.6	365	180	4369	143.6
平均	30.4	14.4	0.5	24.3	377.8	14.6	15.5	18.9	20.7	359.9	17.4	672.6	69.2	22.1	30.4	11.7	314.3	10.3	30.4	15.0	364.1	12.0	30.4	15.0	364.1	12.0
令和6年度合計	365	158	5.2	294	4059	159	166.1	225	249	4121	198.7	7,837.8	797.0	290	365	144	3916	128.8	365	180	4287	141.0	365	180	4287	141.0
令和6年度平均	30.4	13.2	0.4	24.5	338.3	13.3	13.8	18.8	20.8	343.4	16.6	653.1	66.4	24.2	30.4	12.0	326.3	10.7	30.4	15.0	357.3	11.7	30.4	15.0	357.3	11.7

